

リハビリテーション学部 シラバスの変更一覧

学年	ページ	開講科目
1	27	日本国憲法
1	28	経済と政策
1	30	社会保障論
1	44	栄養学
1	49	理学療法学概論
1	50	トランスレーショナルセミナーⅠ(PT)
1	51	臨床実習Ⅰ(体験実習)
1	57	トランスレーショナルセミナーⅠ(OT)
2	65	ICT活用技術
2	68	自然環境と災害
2	74～75	運動学実習
2	79	薬理学
2	88	チームアプローチ入門
2	91	トランスレーショナルセミナーⅡ(PT)
2	99	日常生活活動学
2	100～101	日常生活活動学実習
2	106	トランスレーショナルセミナーⅡ(OT)
3	117	生命倫理学
3	120	臨床検査・画像診断学
3	123	トランスレーショナルセミナーⅢ(PT)
3	126	内部障害理学療法評価学演習
3	127～128	理学療法評価学総合実習
3	130～131	運動器障害理学療法学演習
3	133～134	神経障害理学療法学演習
3	136	内部障害理学療法学
3	137～138	内部障害理学療法学演習
3	142	義肢装具学演習
3	143	臨床実習Ⅱ(評価実習)
3	144	地域リハビリテーション実習
3	145	地域理学療法学
3	146	地域理学療法学演習
3	152	トランスレーショナルセミナーⅢ(OT)
3	166	義肢装具学
3	167	臨床実習Ⅱ(評価実習)
共通	178	教員一覧
共通	179～183	実務経験を有する教員一覧

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLc02				
	●									
科目名	日本国憲法				単位認定者	山口 はるか		評価の方法	試験(レポート)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	選択	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
	O T	選択	1 年			授業時間数	15 時間			
					授業形態	講義	授業回数		8 回	
授業の概要	日本国憲法の概要、基本理念・原理について学ぶ。国民の権利及び義務、幸福追求権、平和主義、生存権の内容に触れ、日常生活との憲法との関わりを学ぶ。また、身近で起こりえる問題について、日本国憲法を基に解釈し、自ら活用できることを目指す。医療従事者、教育者として必要な考え方も日本国憲法から学び、修得する。									
到達目標	憲法の基本的な用語や概念を正しく理解し、説明できる。修得した知識をもとに憲法と医療・福祉が交錯する問題について自分で考え、意見を述べるができる。									
学修者への期待等	聞き慣れない用語や概念が多いと思われるので、復習を中心に取り組むこと。日頃から積極的に新聞やニュースに目を通すのが好ましい。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修			事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	
1	授業ガイダンスと導入―法律の種類と憲法の位置づけ―				事前学修：中学校や高校で学習した憲法の知識、及び、三権分立について復習すること。 事後学修：講義内容をレジュメをもとに復習すること。			60	30	
2	憲法の役割と構造				事前学修：とくにありません 事後学修：前回の講義内容をレジュメをもとに復習すること。			0	30	
3	基本的人権				事前学修：とくにありません 事後学修：前回の講義内容をレジュメをもとに復習すること。			0	60	
4	幸福追求権・生存権				事前学修：とくにありません 事後学修：前回の講義内容をレジュメをもとに復習すること。			0	60	
5	精神的自由・経済的自由				事前学修：とくにありません 事後学修：前回の講義内容をレジュメをもとに復習すること。			0	60	
6	医療訴訟の事例検討―ディスカッションをふまえて事例について検討・解説を行う				事前学修：とくにありません 事後学修：前回の講義内容をレジュメをもとに復習すること。			0	60	
7	憲法改正と平和主義				事前学修：とくにありません 事後学修：前回の講義内容をレジュメをもとに復習すること。			0	60	
8	立法権・行政権・司法権				事前学修：とくにありません 事後学修：これまで学習した内容を総復習すること。			0	90	
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（ディスカッション、討論）									
教科書	特に指定しない。毎回、教員が用意したレジュメを使用する。									
参考文献	授業内で適宜紹介する。									
備考	PT・OT合同で実施する。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1 人間基盤力	2 連携協働力	3 専門実践力	4 学術探究力	5 課題解決力	科目ナンバリング ReLc03				
	●									
科目名	経済と政策				単位 認定者	高橋 真		評価の方法	試験(レポート)	90 %
対象学科 必修・選択 配当年度	P T	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		受講態度	10 %
	O T	必修	1 年			授業時間数	15 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	一国の経済全体の動きのメカニズムを分析するマクロ経済学の基本的な概念や考え方を学び、経済を見る視点の基礎的な素養を身につける。財政政策、金融政策、産業政策、社会保障制度改革等をキーワードに日本経済の現状や課題を理解し、さらに、世界全体が直面するエネルギー・資源・環境問題や国際社会の動向についても取り上げ、日本経済の展望について考える。									
到達目標	経済学の基礎概念をきちんと理解し、そのうえで一国全体の経済を理解するために必要なマクロ経済学の考え方をケインズ理論を中心に学ぶ。また、政府の経済政策、特に、財政政策、金融政策、制度改革（変更）についてその基礎的な知識を得ることによって現実の経済状況を分析して経済問題への解決策を自分で提案できること。									
学修者への期待等	ふだんの生活の中で政治や経済についてのニュースや出来事に興味を持ち、つねに「なぜ？」という疑問とその疑問についての自分なりの回答を導き出せること。その回答が正しいか誤っているのかを授業で得た知識を通して自分自身で評価できること。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修			事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	
1	経済学の考え方とマクロ経済学の概念				事前学修：「経済とは何か」また「経済学とはどのような学問か」を調べる。 事後学修：「経済」の意味と「経済学」の学問的内容を理解し、確認する。			30	30	
2	市場経済と経済政策の関係				事前学修：「市場経済」と呼ばれる国は、どのような国が含まれるかを調べる。 事後学修：「市場経済」がうまく機能しない場合に経済政策が関わってくることを理解し、確認する。			30	30	
3	ケインズの国民所得決定の理論				事前学修：経済学の歴史の中で、「ケインズ」がどのような位置づけにあるのかを調べる。 事後学修：「ケインズの有効需要」の概念を理解し、確認する。			30	30	
4	インフレ・ギャップと財政・金融政策の対応				事前学修：「インフレーション」とはどのような現象かを調べる。 事後学修：「インフレ・ギャップ」の意味とその対策を理解し、確認する。			30	30	
5	デフレ・ギャップと財政・金融政策の対応				事前学修：「デフレーション」とはどのような現象かを調べる。 事後学修：「デフレ・ギャップ」の意味と対策を理解し、確認する。			30	30	
6	制度改革（規制改革・制度変更）と日本経済				事前学修：「規制緩和や民営化」と何かについて調べる。 事後学修：「規制緩和や民営化」が市場経済化であることを理解し、確認する。			30	30	
7	国際経済と日本経済との関係性				事前学修：日本の「貿易依存度」について調べる。 事後学修：国際経済と日本経済の関係を理解し、日本だけでは経済が成立しないことを確認する。			30	30	
8	日本経済の現状とその課題				事前学修：日本の「経済成長率」や「物価動向」について調べる。 事後学修：日本経済の現状を理解し、将来の日本経済の方向性を自分で展望する。			30	30	
アクティブ・ラーニング	☑該当なし ☐該当あり：キーワード（ ）									
教科書	高橋 真『経済学を歩く』税務経理協会									
参考文献	ジョセフ・スティグリッツ/ カール・ウォルシュ 『スティグリッツ 入門経済学』東洋経済新報社									
備考	PT・OT合同で実施する。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
担当教員は、宮城県公立高校教員として11年「地理歴史科」「公民科」科目を担当し、また岩手大学と尚絅学院大学の教職課程担当者として20年「社会科教育法」を担当してきた。その経験に基づき、大学における経済学教育の実践的な教育指導法についての経験を有している。担当教員は学生の理解を高める授業を行います。 【免許・資格】中学校教諭一種、高等学校専任教員免許、大学設置審・教職課程設置担当科目合格教員

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング ReLc06					
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力						
	●			●							
科目名	社会保障論				単位 認定者	青山 美智子		評価の方法	試験（筆記）	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T		選択	1 年	開講時期	後期	単位数		1 単位	授業内課題 (小テスト等)	15 %
	O T		選択	1 年			授業時間数		15 時間	授業後課題	15 %
					授業形態	講義	授業回数		8 回		
授業の概要	社会保障とは何か、社会保障制度を成り立たせている基本的な考え方を理解する。社会保障が誕生した歴史的背景、生存権を規定し国民の生活の保障を具体化した社会保障制度の内容を理解する。また、医療をとりまく環境や少子高齢社会で人口減少が進む我が国で、どのような問題が生じているのか、現実社会の変化に対応すべく、どのような制度改革やサービス改革が行われようとしているのか、身近な問題と制度を結びつけ基本的な知識を身につける。										
到達目標	社会保障制度の体系と概要を理解し説明できる。 統計データからわが国の社会的背景と社会保障制度の関係性を理解し説明できる。 社会生活の中での社会保障の役割について理解し説明できる。										
学修者への期待等	社会保障関連の統計データ、新聞、ニュースに対して、日頃から関心をもつことが望ましい。 社会変遷との関連生を理解し、社会保障制度を複眼的な考え方で理解することが望ましい。 私たちと社会保障とのつながりを理解し、これからの自らの実践に活かせることを期待する。										
回	授業計画・学修の主題					準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)		
1	社会保障の理念、憲法第25条、社会保障制度の構成、わが国の人口構造と人口ピラミッド、少子高齢社会、平均寿命、出生率、一次資料の活用について					事前学修 事後学修	シラバス〔授業概要、到達目標、学習者への期待等〕を確認して授業に臨む 本時のレジュメを読み込む。 当該単元の図表やデータを読む課題を完成させる	30	30		
2	社会保障制度1【健康と公衆衛生】 1. 健康とは、2. 公衆衛生とは、3. 健康日本21 4. 公衆衛生に係る行政組織 〔医療を取り巻く環境〕 1. 国民の受療状況、2. 社会保険給付費、3. 平均在院日数					事前学修 事後学修	資料を復習し授業に臨む 図表やデータを読む課題を完成させる	30	30		
3	〔医療供給体制〕 医療法、医療圏、医療計画、病床の種類、保険医療機関（病院・診療所）、病院機能の分類、医療従事者					事前学修 事後学修	資料を復習し授業に臨む 図表やデータを読む課題を完成させる	30	30		
4	社会保障制度2【社会保険】 1. 社会保険とは、2. 公保険と私保険、 (1) 医療保険制度、医療給付、現金給付 本時の単元に関する医療系国試問題傾向					事前学修 事後学修	資料を復習し授業に臨む 図表やデータを読む課題を完成させる	30	30		
5	(2) 労災保険制度、(3) 雇用保険制度、(4) 年金保険制度、 (5) 介護保険制度 社会保障制度3【老人保健】 高齢者保健医療（後期高齢者保健医療制度） 本時の単元に関する医療系国試問題傾向					事前学修 事後学修	資料を復習し授業に臨む 図表やデータを読む課題を完成させる	30	30		
6	社会保障制度4【社会福祉】 (1) 児童福祉、(2) 母子・父子・寡婦福祉等 本時の単元に関する医療系国試問題傾向					事前学修 事後学修	資料を復習し授業に臨む 図表やデータを読む課題を完成させる	30	30		
7	(3) 障害者福祉、(4) 高齢者福祉、 〔地域包括ケアシステム〕ケアシステムのしくみ 本時の単元に関する医療系国試問題傾向					事前学修 事後学修	資料を復習し授業に臨む 図表やデータを読む課題を完成させる	30	30		
8	社会保障制度5【公的扶助】 1. 貧困とは、2. 生活保護法の実施体制、3. 生活保護の種類と内容、4. 生活保護の原理原則 本時の単元に関する医療系国試問題傾向					事前学修 事後学修	資料を復習し授業に臨む 図表やデータを読む課題を完成させる	30	30		
アクティブ・ラーニング	☑該当なし ☐該当あり：キーワード（ ）										
教科書											
参考文献	一次資料を確認しながら進める。文献は必要に応じて授業内で紹介する。										
備考	テキストは使用しない。毎時 授業資料を配付する。 授業内容や順序は、単元の関連性により調整する場合がある。 小テストは適宜行う。小テストの解答・解説はUNIPAに掲載するので必ず確認すること。PT・OT合同で実施する。										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果						科目ナンバリング									
1 人間基盤力		2 連携協働力		3 専門実践力		4 学術探究力		5 課題解決力		ReFb10					
				●											
科目名		栄養学				単位 認定者		岩間正典 高泉佳苗		評価の方法	試験（筆記）	70 %			
対象学科等 必修・選択 配当年次	P T		必修		1 年		開講時期	後期 <th>単位数</th> <td colspan="2">1 単位</td> <th>受講態度</th> <td>30 %</td>			単位数	1 単位		受講態度	30 %
	O T		必修		1 年			授業形態	講義 <th>授業時間数</th> <td colspan="2">15 時間</td> <td></td> <td></td>		授業時間数	15 時間			
												授業回数	8 回		
授業の概要															
栄養は、生物が生命活動を営む上で外部から摂取する必要がある物質及びその働きである。適切な栄養摂取によって、健康な身体を形成・維持することができる。栄養過多は高血圧、糖代謝異常、脂質代謝異常などの生活習慣病を惹起する可能性がある。一方で、栄養不足は生命の恒常性を保持することが困難になる。本科目では、栄養に関する基礎的な知識を身につけ、理学療法及び作業療法を実施する上で必要な栄養管理とその指導について学修する。															
到達目標															
1. 栄養について基本的知識を習得し、説明できる。 2. 理学療法・作業療法の効果を高めるために必要な栄養管理について理解し、説明できる。															
学修者への期待等															
リハビリテーションに必要な栄養の基礎知識を身につけて、リハビリテーションにおける栄養管理の重要性を理解してください。															
回	授業計画・学修の主題				準備学修				事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当				
1	栄養学概論：リハビリテーションにおける栄養知識の重要性について				事前学修：教科書序章をよく読んで概要を理解しておくこと。 事後学修：とくにありません				30	0	岩間 正典				
2	運動時の栄養				事前学修：とくにありません 事後学修：授業中のワークと授業資料で提示したまとめを用いて復習する。				0	60	高泉 佳苗				
3	栄養素の消化と吸収				事前学修：教科書第1章3「栄養素の役割」を読んでおくこと。 事後学修：とくにありません				30	0	岩間 正典				
4	栄養補給法、栄養評価				事前学修：とくにありません 事後学修：授業中のワークと授業資料で提示したまとめを用いて復習する。				0	60	高泉 佳苗				
5	エネルギー代謝、食事摂取基準【反転授業】				事前学修：第3回資料「日本人の食事摂取基準」が示す5つの指標について、事前にその意味を理解し、学修しておくこと。授業の最初に理解度を確認するテストを行い、それに基づいて授業を進める。 事後学修：とくにありません				60	0	岩間 正典				
6	病態別の栄養管理（1）：低栄養				事前学修：とくにありません 事後学修：授業資料で提示したまとめを用いて復習する。				0	60	高泉 佳苗				
7	病態別の栄養管理（2）：摂食嚥下障害、フレイル				事前学修：とくにありません 事後学修：授業資料で提示したまとめを用いて復習する。				0	60	高泉 佳苗				
8	病態別の栄養管理（3）：過栄養、メタボリックシンドローム				事前学修：とくにありません 事後学修：授業中のワークと授業資料で提示したまとめを用いて復習する。				0	60	高泉 佳苗				
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（ 反転授業 ）														
教科書	『リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎』栢下淳・若林秀隆編著、医歯薬出版株式会社														
参考文献	『PT・OT・STのためのリハビリテーション栄養』若林秀隆著、医歯薬出版株式会社														
備考	PT・OT合同授業														

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

【高泉】管理栄養士として病院に勤務した実務経験を有する。授業では病院での栄養管理業務の経験を活かした授業を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	RPMa01				
	●		●	●						
科目名	理学療法学概論				単位 認定者	網本 和		評価の 方法	授業内課題 （レポート等）	20 %
対象学科等 必修・選択 配当年次	P T	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	2 単位		授業内課題 （小テスト）	30 %
						授業時間数	30 時間		試験（筆記）	50 %
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	本科目は、理学療法の基軸を理解するための科目である。理学療法の本質と将来の方向性を理解するために、理学療法の定義、歴史、役割、将来展望を学ぶ。また、理学療法の業務や考え方、対象疾患や治療手段、理学療法士に関連する法規や保険制度および世界の理学療法の現状と課題について学修する。									
到達目標	1. 理学療法の定義について説明できる 2. 理学療法士の専門性と役割について説明できる 3. 理学療法士の対象疾患と、その治療手段について説明できる 4. 理学療法士に関連する法規や保険制度について説明できる									
学修者への 期待等	理学療法は様々な疾病・障害領域の評価と治療を担当することになるので、広く関心を持って予習し、講義後には当該領域について復習をし、今後の理学療法学の基盤を形成することが期待されている。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当	
1	理学療法概要 理学療法とは～理学療法と倫理・哲学				事前学習：第1章・8章・9章を読んでおくこと。 事後学習として復習すること		30	30	網本 和	
2	理学療法の歴史				事前学習：第12章を読んでおくこと。 事後学習として復習すること		30	30	網本 和	
3	理学療法士を取り巻く法制度				事前学修：第11章を読んでおくこと 事後学修：事後学習として復習すること		30	30	伊橋 光二	
4	理学療法の基盤 理学療法モデル				事前学修：第2章・7章を読んでおくこと 事後学修：事後学習として復習すること		30	30	伊橋 光二	
5	理学療法の学問的体系化と研究法				事前学修：第10章を読んでおくこと 事後学修：事後学習として復習すること		30	30	伊橋 光二	
6	理学療法の対象疾患の知識と治療手段 ①呼吸器疾患				事前学修：第5章・6章を読んでおくこと 事後学修：事後学習として復習すること		30	30	伊橋 光二	
7	理学療法の対象疾患の知識と治療手段 ②循環器疾患				事前学習：第5章・6章を読んでおくこと。 事後学習として復習すること。		30	30	網本 和	
8	理学療法の対象疾患の知識と治療手段 ③神経系疾患（脳卒中）				事前学習：第5章・6章を読んでおくこと。 事後学習として復習すること。		30	30	網本 和	
9	理学療法の対象疾患の知識と治療手段 ④運動器疾患				事前学習：第5章・6章を読んでおくこと。 事後学習として復習すること。		30	30	網本 和	
10	理学療法の対象疾患の知識と治療手段 ⑤小児疾患				事前学習：第5章・6章を読んでおくこと。 事後学習として復習すること。		30	30	網本 和	
11	理学療法組織と部門管理				事前学習：第13章を読んでおくこと。 事後学習として復習すること。		30	30	未定	
12	理学療法と心理・メンタルヘルス				事前学習：第13章を読んでおくこと。 事後学習として復習すること。		30	30	未定	
13	理学療法と地域包括ケア、災害への対応				事前学習：第11章を読んでおくこと。 事後学習として復習すること。		30	30	未定	
14	理学療法士の組織とその活動				事前学習：第12章を読んでおくこと。 事後学習として復習すること。		30	30	未定	
15	世界の理学療法 ～先進諸国の理学療法、発展途上国への援助				事前学習：第12章を読んでおくこと。 事後学習として復習すること。		30	30	網本 和	
アクティブ・ ラーニング	☑該当なし ☐該当あり：キーワード（ ）									
教科書	『PTスタートガイド 基礎理学療法学概論 改訂第2版』 MEDICAL VIEW									
参考文献										
備考	授業内課題および小テストについては、当日または次回までにフィードバックを行う。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReMa01				
	●	●	●	●						
科目名	トランスレーショナルセミナーⅠ				単位認定者	大和田宏美 伊藤大亮		評価の方法	授業内課題 (レポート等)	100 %
対象学科等 必修・選択 配当年次	P T	必修	1 年	開講時期	通年	単位数	1 単位			
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	演習	授業回数		15 回	
授業の概要	トランスレーショナルセミナーⅠ～トランスレーショナルセミナーⅣは、主体的・能動的な学修能力を形成しながら学びの充実度を高め、大学生活において重要な、学生間・学年間のつながりを築くための科目である。 トランスレーショナルセミナーⅠでは、大学で学ぶために必要なアカデミックリテラシー(講義の受け方、各種レポートの作成方法など)と、理学療法を知ること重点を置く。また、グループワークなどを通じて、理学療法に関する様々なテーマについて学修する。									
到達目標	1. 大学生活を有意義に送るための基本的な知識やスキルが身につけられるようになる 2. 理学療法を知り、大学での学びを充実したものとするための契機とすることができる									
学修者への期待等	大学生活を有意義に過ごし、自己の目標を叶えるために、積極的に学ぶことを期待します。さらに多くの仲間をつくり、教員や先輩の話を聞いたりいろいろな考えに触れて、自分の知らなかった理学療法を見つけてください。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修			事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	
1	【1～3年生合同】理学療法を学ぶ意義				事前学修：理学療法について調べてまとめておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる。			30	30	
2	【1～3年生合同】理学療法を学ぶということ ディスカッション				事前学修：理学療法を学ぶことについて自分の考えも含めてまとめておく。 事後学修：討論した内容をまとめる。			30	30	
3	大学の教育方針 3つのポリシーについて				事前学修：教育方針とポリシーについて目を通しておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる。			30	30	
4	カリキュラムについて 理学療法士になるには				事前学修：学生便覧とシラバスを読んでカリキュラムを確認しておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる。			30	30	
5	グループワーク①自己紹介 理学療法とは				事前学修：自己紹介をまとめておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる。			30	30	
6	グループワーク②理学療法士の活躍の場				事前学修：理学療法士の活躍に関する情報をまとめておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる。			30	30	
7	【2専攻1年生合同】理学療法士と作業療法士 (仕事内容の比較、共通点、特徴等)				事前学修：理学療法士と作業療法士について調べてまとめておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる。			30	30	
8	大学生活での学び①社会生活、大学生活のルール				事前学修：学生便覧とシラバスを読んで学則などについて確認しておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる。			30	30	
9	大学生活での学び②講義の受け方				事前学修：学生便覧とシラバスを読んで講義内容などについて確認しておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる。			30	30	
10	大学生活での学び③学習計画の立て方、自己管理能力				事前学修：これからの自分の学修計画について考えてまとめておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる。			30	30	
11	大学生活での学び④情報リテラシー				事前学修：情報リテラシーについてまとめておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる。			30	30	
12	大学生活での学び⑤文献検索の仕方、図書室の利用法				事前学修：文献検索を自分なりにやってみておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる。			30	30	
13	大学生活での学び⑥心の相談室				事前学修：ストレスや心の病などについて調べてまとめておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる。			30	30	
14	大学生活での学び⑦ハラスメント				事前学修：ハラスメントについて調べてまとめておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる。			30	30	
15	大学生活での学び⑧先輩から学ぶ大学生活				事前学修：先輩に聞きたいことをまとめておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる。			30	30	
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（グループワークや先輩との意見交換で自らの主張や議論を展開する）									
教科書	「わたし」を伝えるコミュニケーションワークブック 晃洋書房 ISBN978-4-7710-3822-6									
参考文献	必要に応じて紹介する。									
備考	【担当教員】網本 和、原 和彦、伊橋 光二、大和田 宏美、坂上 尚穂、大友 篤 小関 友記、伊藤 大亮、佐々木 広人、森永 雄、鈴木 裕治 授業内で担当教員から課題内容についてフィードバックを行います。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
担当教員はいずれも、理学療法分野で5年以上の実務経験と理学療法士資格を有しており、豊かな臨床経験をもとに、理学療法教育が可能である

						科目ナンバリング		
						RPM01		
学修成果	1 人間基盤力	2 連携協働力	3 専門実践力	4 学術探究力	5 課題解決力			
	●	●	●	●	●			
科目名	臨床実習Ⅰ（体験実習）				単位 認定者	大和田 宏美		
対象学科等 必修・選択 配当年次	P T	必修	1 年	開講時期	通年	単位数	1 単位	
						授業時間数	45 時間	
					授業形態	実習	授業回数	集中
授業の概要	本科目では、実習施設において、実際の理学療法を体験することを目的とする。さらに、理学療法士の活動見学や理学療法体験を通し、対象者からの情報収集やコミュニケーションの取り方・接し方などの医療面接スキルを身につける。また、理学療法士の役割と位置づけ、他職種との連携などリハビリテーションチームとは何かを体験する。							
到達目標	1）対象者を尊重し、共感的態度をもって、良い人間関係を形成することができる。 2）職場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員としての自覚をもった行動がとれるようになる。 3）基本的な理学療法の見学・体験を通して、自己の理学療法観を形成することができる。							
学修者への 期待等	学内での臨床実習オリエンテーションは、実技を含む授業ですので、動きやすい服装で参加してください。また、グループで学修する機会が多いので、学生間で積極的にコミュニケーションをとってください。 はじめての学外臨床実習ですので、実習施設における規則・心得を守り、実習生として責任ある行動をとること、実習記録の作成・提出は期限を厳守すること、利用者と積極的にコミュニケーションを図ることを心掛けてください。							
授業計画・学修の主題					準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)
1. 実習期間 【10月第1週～10月第4週のうち1週】 2. 実習計画 1) 学内での臨床実習オリエンテーションに参加する。 2) 実習施設でのオリエンテーションや理学療法士の治療業務および理学療法に関連する他部門等を見学する。 3) 実習施設においては、毎日、臨床実習記録を臨床実習指導者に提出して指導を受ける。 4) 学内教員から、臨床実習記録および実習生指導報告書をふまえた指導を受ける。 3. 成績評価 以下を成績評価項目とする。 なお、当該実習における欠席が、所定日数の5分の1を超えた場合は成績評価の対象から除外する。 成績評価項目 ・臨床実習記録（自己学修内容も含む） ※臨床実習指導者による実習生指導報告書の内容も踏まえて、総合的に判断する。					事前学修： ①感染対策について正しい知識と予防方法を身につけておくこと。 ②医療人として、社会人としてふさわしいマナーやコミュニケーションスキルを身につけておくこと。 ③実習先の施設情報や理学療法の特色などについて調べておくこと。 事後学修： ①見学実習後に体験したことや実習先で得られた知識などをまとめておくこと。 ②見学実習の成果をスライドでまとめ、成果発表をすること。 ③グループ内で経験した実習について情報を共有し、次の評価実習に繋げられるようまとめておくこと。		60	60
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（実技練習などのグループワーク、スライド作成、スライド発表）							
教科書	『PT症例レポート赤ペン添削 ビフォー&アフター』、相澤純也、他編、羊土社、ISBN 978-4-7581-0214-8							
参考文献	『PTスタートガイド 基礎理学療法学概論 改訂第2版』 MEDICAL VIEW							
備考	『臨床実習の手引き』（配付資料） 【担当教員】網本 和、原 和彦、伊橋 光二、大和田 宏美、大友 篤、坂上 尚穂、伊藤 大亮、佐々木 広人、森永 雄、鈴木 裕治、小関 友記 実習に関するスライド発表の成果については、実習発表会でフィードバックを行います。							

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は、理学療法分野で5年以上の実務経験と理学療法士資格を有しており、その経験を活かして学生が理学療法についての理解を深め、臨床現場につなげることができるような実践的な授業を行います。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLd03					
	●				●						
科目名	自然環境と災害				単位認定者	江川 新一		評価の方法	試験(筆記)	40	%
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		事前課題	30	%
	O T	必修	2年			授業時間数	15 時間		受講態度	30	%
					授業形態	講義	授業回数		8 回		
授業の概要	自然環境と災害は、深く関係している。産業の発展に伴う地球温暖化は、気候変動を起こし、災害となって新たな問題を引き起こす。 この科目では、環境問題と自然災害の関連性を学び、過去の歴史から、土砂災害、水害（洪水・浸水）、震災（地震・津波）、火山災害等の自然災害を学修する。災害発生メカニズムや防災対策、災害時の生命の維持を学び、災害時に対応するための知識を身につける。また、自然エネルギーの現状や今後について理解を深める。										
到達目標	さまざまなハザードにより起きる災害において、災害リスクと、その低減（＝防災）について述べることができる。わが国をとりまく自然環境との共生についてアイディアを述べることができる。										
学修者への期待等	災害リスク低減の一翼を担える保健医療人材として防災に関わり続けてほしい。とくに、リハビリテーションや看護を必要とする人々の個別防災計画立案や災害ケースマネジメントに関わることができるように地域と連携しながら活動できる人材になってほしい。										
回	授業計画・学修の主題			準備学修				事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)		
1	災害医学の基礎知識			事前学修：事前に教科書35章を読んでくること。 事後学修：授業終了時に概要レポートを提出すること。				60	30		
2	東日本大震災とは何だったのか？			事前学修：報告会を行うので学籍番号下1桁と同じ下1桁の章からの学びと課題発見をスライドで授業前日の決められた時間までに提出すること。(学籍番号〇〇〇7の学生は17章、27章、37章、47章から選ぶ) 事後学修：選ばなかった他の章を少なくとも2つ読む				60	30		
3	気候変動			事前学修：事前に気候変動に起因する災害について予習 事後学修：授業後に能登半島地震・豪雨災害に関する資料についてレポートを作成すること				30	60		
4	避難所運営ゲーム(HUG) (参加型カード演習)			事前学修：ロールプレイ、グループワークを行うので、避難所のあり方について予習してくる。 事後学修：自治体の避難所運営マニュアルを読む				60	30		
5	災害リスクと仙台防災枠組			事前学修：事前に災害リスクの振り返りを行ってくる 事後学修：講義終了後に「高齢化社会のレジリエンス」についてレポートを作成すること				30	60		
6	災害と向き合ってきた歴史と伝承			事前学修：教科書第14-34章のうち2つ読んでくる。 事後学修：さまざまな災害をどう伝承するか、思いつく好事例についてレポートを作成すること。				30	60		
7	Psychological First Aid (ロールプレイ)			事前学修：ロールプレイングを行うので、サイコロジカルファーストエイド日本語版で災害におけるメンタルヘルスの問題について予習してくる。 事後学修：教科書第36章を読む。				60	30		
8	学修成果発表会			事前学修：保健医療従事者として災害にどのように対応し、事前に防災への貢献ができるかをスライド3枚以内でまとめること。(1時間程度) 事後学修：提出分をまとめた資料（配布）を読む				60	30		
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（ロールプレイング、グループワーク、成果発表、課題発見）										
教科書	『東日本大震災からのスタート ―災害を考える51のアプローチ―』東北大学災害科学国際研究所編 大学出版部協会										
参考文献	サイコロジカル・ファーストエイド：PFA(https://www.mhlw.go.jp/content/000805675.pdf) 未来へつなごう私たちのBOSAI 2020(https://sendai-resilience.jp/media/pdf/bosai2020.pdf)										
備考	提出したスライドはいくつか授業中に匿名で提示し、Slideなどを用いた匿名性の双方向性議論の対象にします。また、個別にもフィードバックします。 なお、3回目・5回目・6回目はオンデマンド形式にて実施します。PT・OT合同で実施する。										

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFa011					
			●								
科目名	運動学実習				単位 認定者	原 和彦 森永 雄		評価の方法	授業内課題（プレゼンテーション）	60	%
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題（発表）	10	%
	O T	必修	2 年			授業時間数	40 時間		受講態度	30	%
					授業形態	実習	授業回数		20 回		
授業の概要	本科目では、複数の測定機器を用い実習体験を通して、運動学において学修した知識を応用する。主に、姿勢、重心、歩行周期、歩行距離の測定や歩行時の筋活動やエネルギー消費などについて測定し、各実験から得られた生体情報を分析・解釈することで、身体運動や基本姿勢・動作のメカニズムを学修する。										
到達目標	1. 運動学において学修した知識を応用し、筋力・重力、身体とてこ・モーメント・骨関節運動についてそのメカニズムを理解する。 2. 測定機器を用いて、姿勢と筋活動について計測、筋力測定を実施し、分析・解釈できる。 3. 測定機器を用いて、姿勢バランスを計測、動作解析を実施し、分析・解釈できる。 4. 測定機器を用いて、歩行および歩行時の筋活動を計測し、分析・解釈できる。										
学修者への期待等	・実習では、身体運動や基本姿勢動作を計測対象とするため、動きやすい服装で参加してください。 ・データ分析やプレゼンテーション作成のために、Excel、Power Point、Wordの基礎的な操作ができることを求めます。これらのツールを積極的に活用し、初歩的な分析スキルを身につけてください。 ・課題遂行にあたっては、グループ活動を行います。他者と協力し、多角的な視点から課題に取り組む姿勢を期待します。										
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当		
1	運動学実習の概要、生体力学の実習①（筋力、重力など）				事前学修：基礎運動学p19-46を予習する。 事後学修：受講内容の理解を深めるため復習する。		30	30	原 和彦 森永 雄		
2	生体力学の実習②（身体とてこ、モーメント、骨関節運動）				事前学修：基礎運動学p82-88、p125-138を予習する。 事後学修：受講内容の理解を深めるため復習する。		30	30	原 和彦 森永 雄		
3	実習1（姿勢と筋活動：計測）				事前学修：UNIPAの配付資料および実習課題の確認 事後学修：課題発表、レポートの準備		30	30	原 和彦 森永 雄		
4	実習1（姿勢と筋活動：グループワーク）						30	30	原 和彦 森永 雄		
5	発表1（姿勢と筋活動）						90	30	原 和彦 森永 雄		
6	実習2（筋力測定－測定肢位・測定部位の違い：計測）				事前学修：UNIPAの配付資料および実習課題の確認 事後学修：課題発表、レポートの準備		30	30	原 和彦 森永 雄		
7	実習2（筋力測定－測定肢位・測定部位の違い：グループワーク）						30	30	原 和彦 森永 雄		
8	発表2（筋力測定）						90	30	原 和彦 森永 雄		
9	実習3（姿勢バランス：計測）				事前学修：UNIPAの配付資料および実習課題の確認 事後学修：課題発表、レポートの準備		30	30	原 和彦 森永 雄		
10	実習3（姿勢バランス：グループワーク）						30	30	原 和彦 森永 雄		
11	発表3（姿勢バランス）						90	30	原 和彦 森永 雄		
12	実習4（動作解析：計測）				事前学修：UNIPAの配付資料および実習課題の確認 事後学修：課題発表、レポートの準備		30	30	原 和彦 森永 雄		
13	実習4（動作解析：グループワーク）						30	30	原 和彦 森永 雄		
14	発表4（動作解析）						90	30	原 和彦 森永 雄		

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当
15	実習5（歩行計測：計測）	事前学修：UNIPAの配付資料および実習課題の確認 事後学修：課題発表、レポートの準備	30	30	原 和彦 森永 雄
16	実習5（歩行計測：グループワーク）		30	30	原 和彦 森永 雄
17	発表5（歩行計測）		90	30	原 和彦 森永 雄
18	実習6（歩行時の筋活動：計測）	事前学修：UNIPAの配付資料および実習課題の確認 事後学修：課題発表、レポートの準備	30	30	原 和彦 森永 雄
19	実習6（歩行時の筋活動：グループワーク）		30	30	原 和彦 森永 雄
20	発表6（歩行時の筋活動）		90	30	原 和彦 森永 雄
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（実習実施、グループワーク、ディスカッション）				
教科書	「基礎運動学 第7版」医歯薬出版、ISBN 978-4-263-26682-3 *1年次購入済、 「エッセンシャル・キネシオロジー原書第3版 機能的運動学の基礎と臨床」 南江堂、ISBN 978-4-524-22653-5 *1年次購入済				
参考文献	「身体運動学 関節の制御機構と筋機能」メジカルビュー社、ISBN 978-4-758-1712-2				
備考	1・2回目はPT・OT合同で実施する。3～20回目はPTA・PTB・OT 3クラスで実施する。 ・授業内課題は、講義の中でその都度フィードバックを行います。				

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
原…理学療法士として急性期、回復期医療施設にて5年以上の臨床経験を有している。主に運動器、中枢疾患、切断のリハの臨床理学療法を行う上で必要となる運動学を指導する。 森永…理学療法士として医療福祉関連施設（大学病院、一般病院、老人保健施設、通所施設）にて5年以上の臨床経験を有している。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFb01				
			●							
科目名	薬理学				単位 認定者	根本 互		評価の方法	試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位			
	O T	必修	2年			授業時間数	15 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	薬理学とは薬物の作用メカニズムを学ぶ学問である。本科目では、薬理学の基礎的知識を修得し、生体と薬物との関わりを理解する。様々な疾患に用いられる代表的な治療薬について、作用機序、体にもたらす効果、副作用が起こるメカニズム等を学修し、疾病の治療や予防において使用される薬物についての知識を身につける。									
到達目標	・薬理学の基礎的概念（薬力学、薬物動態、薬物相互作用）を説明できるようになる。 ・神経系および循環器系に作用する薬物ならびに抗炎症・鎮痛薬の分類と主な作用を説明できるようになる。									
学修者への期待等	事前に教科書を目を通し、疑問点を意識した上で授業に臨んでください。また、本科目の学修には、これまでに学修した解剖学・生理学の復習が効果的です。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修			事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	
1	薬理学の基礎知識				事前学修：教科書第2章を読み薬力学と薬物動態学について概要を把握しておく。 事後学修：講義で扱った薬理学の基礎概念（薬力学および薬物動態学の基本事項）を整理し、説明できるよう復習する。			60	60	
2	末梢での神経活動に作用する薬物（交感神経系作用薬）				事前学修：教科書第7章を読み、交感神経系の働きと交感神経系作用薬の基本的作用について概要を把握しておく。 事後学修：講義で扱った各薬物の名称、作用機序および薬理学的特徴を整理し、説明できるよう復習する。			60	60	
3	末梢での神経活動に作用する薬物（副交感神経作用薬）				事前学修：教科書第7章を読み、副交感神経系の働きと副交感神経系作用薬の基本的作用について概要を把握しておく。 事後学修：講義で扱った各薬物の名称、作用機序および薬理学的特徴を整理し、説明できるよう復習する。			60	60	
4	中枢神経系に作用する薬物（催眠薬・抗不安薬、抗精神病薬、抗うつ薬）				事前学修：教科書第8章を事前に読み、催眠薬・抗不安薬、抗精神病薬、抗うつ薬の主な作用と副作用について概要を把握しておく。 事後学修：講義で扱った各薬物の名称、作用機序および薬理学的特徴を整理し、説明できるよう復習する。			60	60	
5	中枢神経系に作用する薬物（抗パーキンソン病薬、抗てんかん薬、麻薬性鎮痛薬）				事前学修：教科書第8章を事前に読み、抗パーキンソン病薬、抗てんかん薬、麻薬性鎮痛薬の主な作用と副作用について概要を把握しておく。 事後学修：講義で扱った各薬物の名称、作用機序および薬理学的特徴を整理し、説明できるよう復習する。			60	60	
6	循環器系に作用する薬物（高血圧治療薬、狭心症治療薬、心不全治療薬）				事前学修：教科書第9章を事前に読み、高血圧治療薬、狭心症治療薬、心不全治療薬の主な作用と副作用について概要を把握しておく。 事後学修：講義で扱った各薬物の名称、作用機序および薬理学的特徴を整理し、説明できるよう復習する。			60	60	
7	循環器系に作用する薬物（抗血液凝固薬、血栓溶解薬、抗血小板薬）				事前学修：教科書第9章を事前に読み、抗血液凝固薬、血栓溶解薬、抗血小板薬の主な作用と副作用について概要を把握しておく。 事後学修：講義で扱った各薬物の名称、作用機序および薬理学的特徴を整理し、説明できるよう復習する。			60	60	
8	抗炎症薬・鎮痛薬				事前学修：教科書第6章を事前に読み、抗炎症薬・鎮痛薬の主な作用と副作用について概要を把握しておく。 事後学修：講義で扱った各薬物の名称、作用機序および薬理学的特徴を整理し、説明できるよう復習する。			60	60	
アクティブ・ラーニング	☒ 該当なし ☐ 該当あり：キーワード（ ）									
教科書	『系統看護学講座 薬理学』第15版、吉岡充弘 他、医学書院									
参考文献	なし									
備考	PT・OT合同授業									
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)										

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFc02				
		●	●		●					
科目名	チームアプローチ入門				単位認定者	高橋 由美 外里 富佐江		評価の方法	授業内課題	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位			
	O T	必修	2年			授業時間数	30 時間			
				授業形態	演習		授業回数		15 回	
授業の概要	包括的なリハビリテーションを行うためには、多くの医療専門職との連携が不可欠である。医療の現場では、様々な医療専門職が協働するチーム医療が基本となり患者中心の医療を提供している。本科目では、理学療法士、作業療法士、看護師等の専門職の活動や役割を学び、チームアプローチの重要性について理解する。									
到達目標	・ チーム医療とは何かを説明できる ・ チーム医療における理学療法士、作業療法士、看護師の役割を説明できる ・ 自身の職種の専門性を説明でき、他職種とどのように連携を図る必要があるか理解する									
学修者への期待等	本科目は、看護師、理学療法士、作業療法士を目指す学生が、多職種連携について共に学び合う貴重な機会となります。自身の専門性に加え、他職種の専門性に関する準備学修を充分行い主体的に臨みましょう。									
回	授業計画				準備学修			事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	チーム医療・患者中心の医療とは				事前学修:教科書 第1章 (p1-6) を読んでおくこと 事後学修:学習した内容について課題を提示する			30	30	外里 富佐江
2	チーム医療におけるコミュニケーション				事前学修:教科書 第1章 (p7-17) を読んでおくこと 事後学修:学習した内容について課題を提示する			30	30	外里 富佐江
3	理学療法士の役割・専門性について				事前学修:教科書 第1章 (p21-38) を読んでおくこと 事後学修:学習した内容について課題を提示する			30	30	未定
4	作業療法士の役割・専門性について				事前学修:教科書第3章 (p103-119) を読んでおくこと 事後学修:学習した内容について課題を提示する			30	30	外里 富佐江
5	看護師の役割・専門性について				事前学修:教科書3章A～Fを読んでおくこと 事後学修:学習した内容について課題を提示する			30	30	高橋 由美
6	チーム医療の実際①：看護師からの視点				事前学修:ユニバにアップした資料を読んでおくこと 事後学修:学習した内容について課題を提示する			30	30	高橋 由美
7	チーム医療の実際②：理学療法士からの視点				事前学修:ユニバにアップした資料を読んでおくこと 事後学修:学習した内容について課題を提示する			30	30	未定
8	チーム医療の実際③：作業療法士からの視点				事前学修:ユニバにアップした資料を読んでおくこと 事後学修:学習した内容について課題を提示する			30	30	外里 富佐江
9	チーム医療の実際④：病院				事前学修:ユニバにアップした資料を読んでおくこと 事後学修:学習した内容について課題を提示する			30	30	未定
10	チーム医療の実際⑤：在宅、地域医療				事前学修:ユニバにアップした資料を読んでおくこと 事後学修:学習した内容について課題を提示する			30	30	外里 富佐江
11	事例検討 [1] 事例提示				事前・事後学修:これまでの授業を十分振り返り、復習して臨む			30	30	高橋 由美 外里 富佐江
12	事例検討 [2] グループワーク							30	30	高橋 由美 外里 富佐江
13	事例検討 [3] 発表準備							30	30	高橋 由美 外里 富佐江
14	事例検討 [4] 発表1				事前学修:グループワーク・発表内容を振り返る 事後学修:グループワーク・発表からの学びについてレポート提出			30	30	高橋 由美 外里 富佐江
15	事例検討 [5] 発表2・まとめ							30	60	高橋 由美 外里 富佐江
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（グループワーク、課題解決型学習）									
教科書	『医療福祉をつなぐ関連職種連携 講義と実習にもとづく学習のすべて』北島政樹編、南江堂									
参考文献	『はじめてのIP 連携を学びはじめる人のためのIP入門』大嶋伸雄著、協同医書出版社 『リハベリック コミュニケーション論・他職種連携論』内山靖他編、医歯薬出版株式会社 『看護師のための多職種連携 攻略本』中山祐次郎監、CBR出版									
備考	・ 授業内課題は発表70%、他レポート等30%で評価し、適宜フィードバックします。 ・ PT・OT合同で実施する。第1～6回、第11～15回は看護学部と合同で実施する予定です。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)	
看護師、作業療法士(病院等に5年以上勤務)として、チーム医療の実務経験を活かし、学生の理解を深められるような授業を展開する。	

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReMa02					
	●	●	●	●							
科目名	トランスレーショナルセミナーⅡ				単位認定者	大和田 宏美		評価の方法	授業内課題 (レポート等)	80	%
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	通年 <th>単位数</th> <td>1 単位</td> <td>授業内課題 (発表)</td> <td>20</td> <td>%</td>	単位数	1 単位		授業内課題 (発表)	20	%
						授業時間数	30 時間				
					授業形態	演習 <th>授業回数</th> <td>15 回</td> <td></td> <td></td> <td></td>	授業回数		15 回		
授業の概要	トランスレーショナルセミナーⅠ～トランスレーショナルセミナーⅣは、主体的・能動的な学修能力を形成しながら学びの充実度を高め、大学生活において重要な、学生間・学年間のつながりを築くための科目である。 トランスレーショナルセミナーⅡでは、良好な人間関係を構築する姿勢や態度を養い、学生、社会人、医療従事者として求められるコミュニケーションスキルの修得を目指す。また、グループワークなどを通じて、理学療法に関する様々なテーマについて学修する。										
到達目標	1. 相手の考えを受容し、認めることができる 2. 相手の意図していることを汲み取ることができる 3. 相手に合わせて自分の意見を適切に伝えることができる 4. 社会人として求められる必要なコミュニケーションを実践できる 5. 医療従事者として必要なコミュニケーションを実践できる										
学修者への期待等	入学時の理学療法士像と1年間理学療法学を学んでからの理学療法士像の違いについて改めて考えてください。コミュニケーション能力の向上は理学療法士への第一歩です。コミュニケーションスキルを学び、対話の重要性について積極的に学ぶことを期待します。										
回	授業計画・学修の主題				準備学修			事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)		
1	【1～3年生合同】理学療法を学ぶ意義				事前学修：1年次に学んだ理学療法についてまとめておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる。			30	30		
2	【1～3年生合同】理学療法を学ぶということ ディスカッション				事前学修：理学療法を学ぶことの意義について自分の考えも含めてまとめておく。 事後学修：討論した内容をまとめる。			30	30		
3	理学療法とは何か 理学療法の種類①グループワーク				事前学修：理学療法の種類について調べてまとめておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる。			30	30		
4	理学療法とは何か 理学療法の種類②発表				事前学修：理学療法の種類についてまとめて発表の準備をしておく。 事後学修：他の発表の内容をまとめる。			30	30		
5	理想とする理学療法像は何か①グループワーク				事前学修：自分の理想の理学療法像について考えをまとめておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる。			30	30		
6	理想とする理学療法像は何か②発表				事前学修：理想の理学療法像についてまとめて発表の準備をしておく。 事後学修：他の発表の内容をまとめる。			30	30		
7	コミュニケーションとは何か				事前学修：コミュニケーションについて調べてまとめておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる。			30	30		
8	コミュニケーション能力①(自己統制と他者受容、傾聴力)				事前学修：左記のコミュニケーションについて調べてまとめておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる。			30	30		
9	コミュニケーション能力②(読解力と要約力)				事前学修：左記のコミュニケーションについて調べてまとめておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる。			30	30		
10	コミュニケーション能力③(伝える力)				事前学修：左記のコミュニケーションについて調べてまとめておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる。			30	30		
11	社会人としてのコミュニケーション能力①(報告、連絡、相談)				事前学修：左記のコミュニケーションについて調べてまとめておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる。			30	30		
12	社会人としてのコミュニケーション能力②(挨拶、電話の掛け方)				事前学修：左記のコミュニケーションについて調べてまとめておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる。			30	30		
13	社会人としてのコミュニケーション能力③(メールの対応)				事前学修：左記のコミュニケーションについて調べてまとめておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる。			30	30		
14	医療従事者としてのコミュニケーション能力①(言語コミュニケーション、非言語コミュニケーション)				事前学修：左記のコミュニケーションについて調べてまとめておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる。			30	30		
15	医療従事者としてのコミュニケーション能力②(ミラーリング、ペーシング、質問の仕方)				事前学修：左記のコミュニケーションについて調べてまとめておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる。			30	30		
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（グループワークやディスカッションで自らの主張や議論を展開する）										
教科書	「わたし」を伝えるコミュニケーションワークブック 晃洋書房 ISBN978-4-7710-3822-6										
参考文献	必要に応じて紹介する。										
備考	【担当教員】網本 和、原 和彦、伊橋 光二、大和田 宏美、坂上 尚穂、大友 篤 小関 友記、伊藤 大亮、佐々木 広人、森永 雄、鈴木 裕治 授業内で担当教員から課題内容についてフィードバックを行います。										

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
担当教員はいずれも、理学療法分野で5年以上の実務経験と理学療法士資格を有しており、豊かな臨床経験をもとに、理学療法をおこなう上での実践的なコミュニケーションスキルを教授することが可能である。

学修成果	1 人間基盤力	2 連携協働力	3 専門実践力	4 学術探究力	5 課題解決力	科目ナンバリング RPMd14					
			●								
科目名	日常生活活動学				単位 認定者	未定		評価の方法	試験（筆記）	70	%
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2 年	開講時期	前期	単位数	2 単位		授業内課題 （小テスト）	30	%
						授業時間数	30 時間				
				授業形態	講義	授業回数	15 回				
授業の概要	本科目では、日常生活活動の概念と範囲を理解し、正常な日常生活活動を理解した上で、動作の獲得方法や介助・支援の方法について学ぶ。本講義では、FIM（Functional Independence Measure）やBI（Barthel Index）などの標準化されたADL評価や個々の評価、介助法やポジショニング、ADLを支援する機器としての福祉用具、歩行補助具、車いすの構造と周辺用具（クッション、移乗補助器具）などの基本的な知識について学修する。										
到達目標	1. 日常生活活動学（ADL）の概念や範囲、ADLと生活の質（QOL）の関係性を理解することができる。 2. 標準化された評価（FIMやBI）の採点基準を理解し、ある程度の助言下で利用することができる。 3. ADLを支援する機器や環境についての視野を広げることができる。										
学修者への期待等	・対象者の日常生活を改善する事は、生活の質を高める一つの手段である事を理解してほしい。 ・日常生活活動学は、他の科目と非常に関連性のある科目である。他科目との関連性を考慮した予習・復習を期待あしたい。										
回	授業計画・学修の主題				準備学修			事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)		
1	ADLの概念や範囲、ADLとQOLの関係性				教科書P1～P19を読んでまとめる			30	30		
2	ADLと障害（ICIDHとICF）				教科書P21～P36を読んでまとめる			30	30		
3	できるADL（BI）の評価 IADL評価とその重要性				教科書P37～P43を読んでまとめる			30	30		
4	しているADL（FIMセルフケア・排泄管理・移乗）の評価				教科書P45～P54のセルフケア・排泄管理・移乗の部分を読んでまとめる			30	30		
5	しているADL（FIM移動・コミュニケーション・社会的認知）の評価とその他ADL評価法				教科書P55～P69のFIMの部分を読んでまとめる			30	30		
6	ADLの運動学的分析に必要なバイオメカニクス				教科書P71～P83の移動用補助具の部分を読んでまとめる			30	30		
7	姿勢の名称と姿勢分析のポイントと介入				教科書P85～P91の基本動作1の部分を読んでまとめる			30	30		
8	ADLを支援する機器（食事・整容・更衣・入浴動作関連）				教科書P93～P104の基本動作2の部分を読んでまとめる			30	30		
9	ADLを支援する機器（トイレ・起居・移乗動作関連）				教科書P107～P104の基本動作3の部分を読んでまとめる			30	30		
10	歩行の重要性と歩行補助具の名称と役割				教科書P107～P114の移動用補助具の部分を読んでまとめる			30	30		
11	車いす（名称、分類、基本寸法、周辺用具）				車いすについて調べる（30分程度）			30	30		
12	福祉用具支給制度とその他支援機器（ECS、意思伝達装置、介護ロボットなど）				教科書P125～P146のセルフケア、ADLを支援する機器の部分を読んでまとめる			30	30		
13	生活環境とADL、QOLの関係性				教科書P149～P156の住環境整備の部分を読んでまとめる			30	30		
14	生活環境と法的諸制度				教科書P157～P173の生活環境の部分を読んでまとめる			30	30		
15	生活環境としての住宅と住宅改修				教科書P174～P184の生活環境の部分を読んでまとめる			30	30		
アクティブ・ラーニング	☒ 該当なし ☐ 該当あり：キーワード（ ）										
教科書	南江堂 シンプル理学療法学シリーズ 日常生活活動学テキスト 改訂第3版 ISBN：978-4-524-24578-9										
参考文献											
備考	授業内課題は、次回の授業時に返却・解説する。										

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	RPMd15					
			●	●							
科目名	日常生活活動学実習				単位 認定者	小関 友記		評価の方法	試験（筆記）	70	%
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		試験（実技）	30	%
						授業時間数	40 時間				
					授業形態	実習	授業回数		20 回		
授業の概要	ADLはリハビリテーション専門職にとって最も重要な概念であり、実践技術である。本科目は、日常生活活動学で学んだ知識を活かし、日常生活に関する理学療法の一連の流れ（ADL評価、治療や介助・支援方法）を理解し、より実践的な疾患別のADL介助やADL指導方法について学修する。寝返り動作や起き上がり動作などの基本動作を中心とした各動作の介助、指導方法について実践する。また、歩行補助具である杖・松葉杖・車いすにおける選び方や使用方法の実際を実践する。										
到達目標	1. 基本動作を中心とした各動作の介助・指導を行うことができる。 2. 日常生活に関する理学療法の一連の流れ（ADL評価、治療や介助・支援方法）を理解できる。										
学修者への期待等	・ 基本的介助誘導の講義では、動きやすい服装で参加してください。										
回	授業計画・学修の主題			準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当			
1	日常生活活動学の必要性			事前学習：指定教科書の該当箇所をよく読み、予習する。 事後学習：授業内容を復習する。		30	30	未定			
2	寝返り・起き上がり動作の基本的介助・誘導			事前学習：UNIPAに投稿された事前資料を予習する 事後学習：実技修得できるよう練習する		30	60	森永 雄			
3	起立・移乗動作の基本的介助・誘導					30	60	森永 雄			
4	ベッド上移動・車いす移動の基本的介助・誘導					30	60	森永 雄			
5	歩行・階段動作の基本的介助・誘導（T-cane、Q-cane）					30	60	小関 友記 森永 雄			
6	歩行・階段動作の基本的介助・誘導（松葉杖）の基本的介助・誘導					30	60	小関 友記 森永 雄			
7	車いす上移動の基本的介助・誘導					30	60	森永 雄			
8	脳血管疾患におけるADL指導の実際（基本動作中心）			事前学習：指定教科書p38-95をよく読み、予習する 事後学習：講義内容を復習し、実技修得できるよう練習する		30	30	小関 友記			
9	脳血管疾患におけるADL指導の実際（生活関連動作中心）					30	30	小関 友記			
10	神経筋疾患におけるADL指導の実際			事前学習：指定教科書の該当箇所をよく読み、予習する。 事後学習：授業内容を復習する。		30	30	坂上 尚穂			
11	神経難病におけるADL指導の実際			事前学習：指定教科書の該当箇所をよく読み、予習する。 事後学習：授業内容を復習する。		30	30	坂上 尚穂			
12	呼吸器・循環器疾患におけるADL指導の実際			事前学習：指定教科書の該当箇所をよく読み、予習する。 事後学習：授業内容を復習する。		30	30	未定			

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当
13	関節リウマチにおけるADL指導の実際	事前学習：指定教科書の該当箇所をよく読み、予習する。 事後学習：授業内容を復習する。	30	30	鈴木 裕治
14	人工股関節全置換術後におけるADL指導の実際	事前学習：指定教科書の該当箇所をよく読み、予習する。 事後学習：授業内容を復習する。	30	30	未定
15	脊髄損傷（四肢麻痺）におけるADL指導の実際	事前学習：指定教科書p96-159をよく読み、予習する。 事後学習：講義内容を復習し、実技修得できるよう練習する。	30	30	小関 友記
16	脊髄損傷（対麻痺）におけるADL指導の実際	事前学習：指定教科書p160-173をよく読み、予習する。 事後学習：講義内容を復習し、実技修得できるよう練習する。	30	30	小関 友記
17	症例検討（整形外科疾患）	事前学習：UNIPAに投稿された事前資料を予習する 事後学習：講義内容を復習し、症例に応じたADLを立案できるようにする	30	30	小関 友記
18	グループワーク（整形外科疾患）		30	30	小関 友記
19	症例検討（脳血管疾患）	事前学習：UNIPAに投稿された事前資料を予習する 事後学習：講義内容を復習し、症例に応じたADLを立案できるようにする	30	30	小関 友記
20	グループワーク（脳血管疾患）		30	30	小関 友記
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（グループワーク）				
教科書	羊土社 PT・OTビジュアルテキストADL 第2版 ISBN：978-4-524-24578-9				
参考文献					
備考	A B 別 2 クラス 【評価】試験（実技）30％は随時試験であり、「2-7回の基本的介助・誘導（森永）」から出題し、態度・技能・表現の3要素から採点を行う。				

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
担当教員は理学療法分野で5年以上の実務経験と理学療法士資格を有しており、その経験を活かして学生が理解と実践ができるように授業を行います。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReMa02					
	●	●	●	●							
科目名	トランスレーショナルセミナーⅡ				単位 認定者	酒井 弘美		評価の方法	授業内課題 (レポート等)	60	%
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	2年	開講時期	通年	単位数	1 単位		授業内課題 (発表)	40	%
						授業時間数	30 時間				
					授業形態	演習	授業回数		15 回		
授業の概要	トランスレーショナルセミナーⅠ～トランスレーショナルセミナーⅣは、主体的・能動的な学修能力を形成しながら学びの充実度を高め、大学生活において重要な、学生間・学年間のつながりを築くための科目である。 トランスレーショナルセミナーⅡでは、良好な人間関係を構築する姿勢や態度を養い、学生、社会人、医療従事者として求められるコミュニケーションスキルの修得を目指す。また、グループワークなどを通じて、作業療法に関する様々なテーマについて学修する。										
到達目標	1. 相手の考えを受容し、認めることができる 2. 相手の意図していることを汲み取ることができる 3. 相手に合わせて自分の意見を適切に伝えることができる 4. 社会人として求められる必要なコミュニケーションを実践できる 5. 医療従事者として必要なコミュニケーションを実践できる 6. 学生間、学年間でお互いに助け合い、円滑に議論を進めることができる										
学修者への期待等	自分と他者の考えやその表現方法の違いなどについて、できるだけ理解しようと心がけながら参加してほしい。										
回	授業計画・学修の主題				準備学修			事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)		
1	【1～3年生合同】作業療法を学ぶ意義				事前学修：特になし 事後学修：課題がある場合、提示された課題を行う。			0	30		
2	【1～3年生合同】作業療法を学ぶということ ディスカッション				事前学修：特になし 事後学修：課題がある場合、提示された課題を行う。			0	30		
3	作業療法とは何か 作業療法の種類①グループワーク				事前学修：特になし 事後学修：課題がある場合、提示された課題を行う。			0	30		
4	作業療法とは何か 作業療法の種類②発表				事前学修：特になし 事後学修：課題がある場合、提示された課題を行う。			0	30		
5	理想とする作業療法像は何か①グループワーク				事前学修：特になし 事後学修：課題がある場合、提示された課題を行う。			0	30		
6	理想とする作業療法像は何か②発表				事前学修：特になし 事後学修：課題がある場合、提示された課題を行う。			0	30		
7	コミュニケーションとは何か				事前学修：特になし 事後学修：学んだことを日常のコミュニケーションで意識する。			0	0		
8	コミュニケーション能力①(自己統制と他者受容、傾聴力)				事前学修：特になし 事後学修：学んだことを日常のコミュニケーションで意識する。			0	0		
9	コミュニケーション能力②(読解力と要約力)				事前学修：特になし 事後学修：学んだことを日常のコミュニケーションで意識する。			0	0		
10	コミュニケーション能力③(伝える力)				事前学修：特になし 事後学修：学んだことを日常のコミュニケーションで意識する。			0	0		
11	社会人としてのコミュニケーション能力①(報告、連絡、相談)				事前学修：特になし 事後学修：学んだことを日常のコミュニケーションで意識する。			0	0		
12	社会人としてのコミュニケーション能力②(挨拶、電話の掛け方)				事前学修：特になし 事後学修：学んだことを日常のコミュニケーションで意識する。			0	0		
13	社会人としてのコミュニケーション能力③(メールの対応)				事前学修：特になし 事後学修：学んだことを日常のコミュニケーションで意識する。			0	0		
14	医療従事者としてのコミュニケーション能力①(言語コミュニケーション、非言語コミュニケーション)				事前学修：特になし 事後学修：学んだことを日常のコミュニケーションで意識する。			0	0		
15	医療従事者としてのコミュニケーション能力②(ミラーリング、ペーシング、質問の仕方)				事前学修：特になし 事後学修：学んだことを日常のコミュニケーションで意識する。			0	0		
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（グループワーク、ディスカッション、発表）										
教科書	「わたし」を伝えるコミュニケーションワークブック 湯口 恭子 晃洋書房										
参考文献	適宜、紹介する。										
備考	【担当教員】外里 富佐江、齋藤 佑樹、酒井 弘美、須藤 あゆみ、戸田 祐子、熊谷 竜太、高橋 慧 授業内課題の発表については授業内で講評を行う。										

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
担当教員はいずれも、作業療法分野で5年以上の実務経験と作業療法士資格を有しており、豊かな臨床経験をもとに、より実践的な教育が可能である

学修成果	1 人間基盤力	2 連携協働力	3 専門実践力	4 学術探究力	5 課題解決力	科目ナンバリング				
	●	●		●		ReLb02				

科目名	生命倫理学				単位 認定者	飯沼 一字		評価の方法	試験(筆記)	70	%
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内 課題等	20	%
	O T	必修	3 年			授業時間数	15 時間		受講態度	10	%
				授業形態	講義	授業回数	8 回				

授業の概要	医療は生物、心理、社会的な包括的アプローチが求められる。医学の進歩発展過程や学際的に問われる倫理（生殖技術・移植医療・遺伝子技術）、医療現場で問われている倫理的問題（人工妊娠中絶・安楽死・尊厳死）等を具体的な課題を通して学ぶ。医療従事者として必要とされる、相手を尊重し敬意を持って接する姿勢や、人間の尊厳についての考えを深め、倫理的態度を身につけることを目指す。										
到達目標	生命とは何か、生命科学とは何か、倫理とは何かを考えに入れながら、医療従事者として業務に携わるに当たっての中心になる心構えを培う。著しい医学・科学の発展と倫理との関係を学ぶ。まだ解決されていない課題が多いが、それに対しての各人の考えをまとめていくことを努力する。										
学修者への期待等	生命に対して、人間としてのあり方を深く考えながら、受講に臨むこと。自分ならどうするかなど、事柄を他人事ではなく、自身に即した事柄としてとらえていく態度を望む。										

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	生命倫理学総論	【事前学修】：とくにありません 【事後学修】：生命倫理とは、世の中の出来事での生命と倫理の関わりであることを理解する。	0	30	
2	医学・医療の歴史、近代科学の発展と医療倫理	【事前学修】：とくにありません 【事後学修】：近代になり特に科学が著しい発展を見せたことを理解し、それに伴って倫理的課題が生じていることを理解する。	0	30	
3	医学関連の出来事（医療事故、医療過誤を含む）	【事前学修】：とくにありません 【事後学修】：20世紀からの医学関連の出来事と医療倫理について理解する。	0	30	
4	生命科学の革命的発展と倫理	【事前学修】：とくにありません 【事後学修】：十数年前には考えられなかった医学の発展がある。倫理との兼ね合いについて理解を深める。	0	30	
5	生命倫理の歴史と現代への連携	【事前学修】：とくにありません 【事後学修】：人権がどう守られるようになったか。その思想的根拠について理解する。	0	30	
6	大災害と医療の関わり	【事前学修】：とくにありません 【事後学修】：今でもしばしば起きる大災害に際して、医学・医療がどうかかわるかを理解する。	0	30	
7	生命の始まりとつなぎ	【事前学修】：とくにありません 【事後学修】：生命誕生に係る倫理的考察、生命をいかにつなぐかの理解を深める。	0	30	
8	死の医学	【事前学修】：とくにありません 【事後学修】：生命の終わりである死について考える。	0	30	
アクティブ・ラーニング	☒ 該当なし ☐ 該当あり：キーワード（ ）				
教科書	特になし				
参考文献					
備考	授業内課題については適宜フィードバックする。PT・OT合同で実施する。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFb14				
			●							
科目名	臨床検査・画像診断学				単位 認定者	小山 周樹		評 価 の 方 法	試験(筆記・ レポート)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	PT	必修	3 年	開講時期	前期	単位数	1 単位			
	OT	必修	3 年			授業時間数	15 時間			
					授業形態	講義	授業回数		8 回	
授業の概要	本科目では、各種画像診断機器を用いた単純X線検査、CT検査、MRI検査、血管造影検査、核医学検査、超音波検査など各種検査画像の特徴と読影方法について学ぶ。理学療法及び作業療法の対象となる代表的疾患の画像所見について理解し、疾患の症状と画像から得られる情報により病巣部位の同定と症状の因果関係について理解する。画像所見から効果的な治療介入を行うための、基礎的な知識を身につける。									
到達目標	1. 基本的な画像診断機器の原理・特徴を理解し説明できる。 2. 実臨床で使用される単純X線・CT・MRIにおける正常解剖を説明できる。 3. リハビリテーションの対象となる代表的疾患の画像所見を理解し説明できる。 4. リハビリテーションに必要な検査データを理解する。									
学修者への 期待等	さまざまな領域の知識を学び、講義で学ぶ画像解剖・疾患の知識を実地診療の人体解剖と所見にリンクさせ、リハビリテーションの実践に適用できるように予習・復習をしてください。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	担当教員
1	画像診断学-1：X線検査の原理・特徴と胸部の正常解剖および画像診断（呼吸器）				事前学修：解剖学Iで指定されている教科書『標準解剖学』坂井建雄の胸部の解剖を読んで理解してください。 事後学修：配布資料を読んで理解し、臨床の画像を把握しておいてください。			30	30	小山 周樹
2	画像診断学-2：CT検査の原理・特徴と胸腹部・心大血管の正常解剖および画像診断（呼吸器・中枢神経系）				事前学修：解剖学Iで指定されている教科書『標準解剖学』坂井建雄の心・大血管および中枢神経系の解剖を読んで理解してください。 事後学修：配布資料を読んで理解し、臨床の画像を把握しておいてください。			30	30	小山 周樹
3	画像診断学-3：MRI検査の原理・特徴と中枢神経系の正常解剖および画像診断（中枢神経系）				事前学修：解剖学Iで指定されている教科書『標準解剖学』坂井建雄の中枢神経系の解剖を読んで理解してください。 事後学修：配布資料を読んで理解し、臨床の画像を把握しておいてください。			30	30	小山 周樹
4	画像診断学-4：核医学検査の原理・特徴と中枢神経系の正常解剖および画像診断（呼吸器・中枢神経系）				事前学修：解剖学Iで指定されている教科書『標準解剖学』坂井建雄の胸部および中枢神経系の解剖を読んで理解してください。 事後学修：配布資料を読んで理解し、臨床の画像を把握しておいてください。			30	30	小山 周樹
5	画像診断学-5：胸部疾患の画像診断				事前学修：解剖学Iで指定されている教科書『標準解剖学』坂井建雄の胸部の解剖を読んで理解してください。 事後学修：配布資料を読んで理解し、臨床の画像を把握しておいてください。			30	30	小山 周樹
6	画像診断学-6：中枢神経系疾患の画像診断				事前学修：解剖学Iで指定されている教科書『標準解剖学』坂井建雄の中枢神経系の解剖を読んで理解してください。 事後学修：配布資料を読んで理解し、臨床の画像を把握しておいてください。			30	30	小山 周樹
7	臨床検査データの見方①Hb, CRP, A1b等				事前学修：Hb, CRP, A1bは何を表す検査か。異常値の場合、何が起りやすいか。簡単にまとめておく。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	三木 未佳
8	臨床検査データの見方②Na, Dダイマー, 血糖値等				事前学修：Na, Dダイマー, 血糖値は何を表す検査か。異常値の場合、何が起りやすいか。簡単にまとめておく。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	三木 未佳
アクティブ・ラーニング	☑該当なし ☐該当あり：キーワード（ ）									
教科書	指定なし									
参考文献	石蔵礼一ほか：一目でわかる！脳のMRI 正常解剖と機能. 秀潤社, 2015 前田 眞治：標準理学療法学・作業療法学・言語療法学 別巻 脳画像. 医学書院, 2017. 日本離床学会監修：検査・データがまるごとわかる本 慧文社, 2020. 相澤純也ほか：PT症例レポート 羊土社, 2016.									
備考	PT・OT合同で実施する。									

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
(小山)放射線科専門医であり医学部においても東北大学医学部および東北医科薬科大学医学部にて臨床実習を通算30年以上担当しており、本学看護学部でも病態治療学Iを10年以上担当している。 (三木) 臨床検査技師として5年以上大学病院での実務経験に基づき、検査データの見方について授業を行います。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReMa03					
	●	●	●	●	●						

科目名	トランスレーショナルセミナーⅢ				単位認定者	坂上 尚穂		評価の方法	授業内課題 (レポート等)	80	%	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T		必修	3 年	開講時期	通年	単位数		1 単位	授業内課題 (発表)	20	%
						授業形態	演習		授業時間数	30 時間		
									授業回数	15 回		

授業の概要	トランスレーショナルセミナーⅠ～トランスレーショナルセミナーⅣは、主体的・能動的な学修能力を形成しながら学びの充実度を高め、大学生活において重要な、学生間・学年間のつながりを築くための科目である。 トランスレーショナルセミナーⅢでは、様々な疾患を想定した臨床推論を、グループワークを通じて学修し、理学療法への理解を深めることに重点を置く。また、グループワークにおける症例検討を通して、自身とは異なる見解を受け入れ、問題解決のための思考力を身につける。										
到達目標	1. 設定した状況に応じた検査・測定方法の選択ができる 2. 自分が導き出せなかった考え方を他者から積極的に取り入れながら臨床推論ができる										
学修者への期待等	今まで学修した内容を統合して実際の理学療法評価の理解を深めて臨床実習Ⅱ（評価実習）に繋げてください。										

回	授業計画・学修の主題				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	【1～3年生合同】理学療法を学ぶ意義				事前学修：教科書の該当部分をまとめる 事後学修：授業内容を整理する				30	30
2	【1～3年生合同】理学療法を学ぶということ ディスカッション				事前学修：教科書の該当部分をまとめる 事後学修：授業内容を整理する				30	30
3	グループワーク①障害とはなにか、さまざまな疾患から患者像について考える				事前学修：脳血管疾患の病態について復習し、まとめる 事後学修：授業内容を整理する				30	30
4	グループワーク②患者像について発表				事前学修：脳血管疾患の評価について復習し、まとめる 事後学修：授業内容を整理する				30	30
5	グループワーク③患者像から理学療法評価を考える：興味・関心領域から模擬患者の選択				事前学修：脳血管疾患の統合解釈・問題点抽出（ICF）・目標設定の方法を調べる 事後学修：授業内容を整理する				30	30
6	グループワーク④患者像から理学療法評価を考える：模擬患者の検査・測定項目のリストアップ				事前学修：脳血管疾患の統合解釈・問題点抽出（ICF）・目標設定の方法を調べる 事後学修：授業内容を整理する				30	30
7	グループワーク⑤模擬患者の理学療法評価を考える：検査・測定機器を用いた評価				事前学修：脳血管疾患の一般的な治療内容を調べる 事後学修：授業内容を整理する				30	30
8	グループワーク⑥模擬患者の理学療法評価を考える：検査・測定機器を用いた評価の実際				事前学修：大腿骨頸部骨折の病態について調べる 事後学修：授業内容を整理する				30	30
9	グループワーク⑦模擬患者の理学療法評価を考える：模擬患者の検査・測定のシミュレーション				事前学修：大腿骨頸部骨折の評価について復習し、まとめる 事後学修：授業内容を整理する				30	30
10	グループワーク⑧模擬患者の理学療法評価を考える：模擬患者の仮説・問題点・ICF				事前学修：大腿骨頸部骨折の統合解釈・問題点抽出（ICF）・目標設定の方法を調べる 事後学修：授業内容を整理する				30	30
11	グループワーク⑨模擬患者の理学療法評価に対する治療介入は何かについて考える				事前学修：大腿骨頸部骨折の統合解釈・問題点抽出（ICF）・目標設定の方法を調べる 事後学修：授業内容を整理する				30	30
12	グループワーク⑩模擬患者の理学療法評価に対する治療介入の実際				事前学修：大腿骨頸部骨折の一般的な治療内容について調べる 事後学修：授業内容を整理する				30	30
13	グループワーク⑪検討課題の理学療法についての1～5グループの発表				事前学修：発表の準備と練習 事後学修：発表内容を整理する				30	30
14	グループワーク⑫検討課題の理学療法についての6～10グループの発表				事前学修：発表の準備と練習 事後学修：発表内容を整理する				30	30
15	理学療法における臨床推論のまとめ				事前学修：担当教員の意見をまとめる 事後学修：授業内容を整理する				30	30

アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（グループディスカッション）										
-------------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

教科書	PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂版 金原出版 ISBN 978-4-307-75058-5 PT・OTのための臨床技能とOSCE-機能障害・能力低下への介入編 第2版 金原出版 ISBN：978-4-307-75067-7										
参考文献	「PT症例レポート赤ペン添削ビフォー&アフター」相澤純也ら編、羊土社、ISBN 978-4-7581-0214-8										
備考	【担当教員】網本 和、原 和彦、伊橋 光二、大和田 宏美、大友 篤、坂上 尚穂、小関 友記、伊藤 大亮、佐々木 広人、森永 雄、鈴木 裕治										

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング						
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	RPMc05						
			●									
科目名	内部障害理学療法評価学演習				単位 認定者	伊藤 大亮			評価 の方法	試験（実 技）	50	%
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3 年	開講時期	後期	単位数	1	単位		試験（筆 記）	40	%
						授業時間数	30	時間		授業内課題 （レポート 等）	10	%
					授業形態	演習	授業回数	15		回		
授業の概要	本科目では、主として内部疾患の病態を把握するための検査手技や内部障害に必要な理学療法の検査・測定をするための基本的な技術を修得する。また、内部障害の病態、病態を捉えるための画像所見、及び評価、リスク管理の把握、内部障害における代表疾患の特性と病態を理解した上で、各疾患や病態に応じたフィジカルアセスメント（視診・触診・聴診・打診）や各検査測定の実学療法評価について学修する。											
到達目標	1. 内部障害に対する各種評価の意義、方法、結果の解釈ができるようになる。 2. 内部障害疾患に対するリスク層別化と各種評価を実践できる。											
学修者への 期待等	内部障害分野における臨床実践力の基礎を身に着けることを期待します。											
回	授業計画・学修の主題			準備学修						事前学修時 間(分)	事後学修時 間(分)	
1	呼吸器系の身体機能評価の概要：視診			事前学修：左記内容についてテキストや他書籍で内容を確認しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる						30	30	
2	呼吸器系の身体機能評価の実践：視診			事前学修：左記内容についてテキストや他書籍で内容を確認しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる						30	30	
3	呼吸器系の身体機能評価の概要：触診			事前学修：左記内容についてテキストや他書籍で内容を確認しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる						30	30	
4	呼吸器系の身体機能評価の実践：触診			事前学修：左記内容についてテキストや他書籍で内容を確認しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる						30	30	
5	呼吸器系の身体機能評価：打診			事前学修：左記内容についてテキストや他書籍で内容を確認しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる						30	30	
6	呼吸器系の身体機能評価の概要：聴診			事前学修：左記内容についてテキストや他書籍で内容を確認しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる						30	30	
7	呼吸器系の身体機能評価の実践：聴診			事前学修：左記内容についてテキストや他書籍で内容を確認しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる						30	30	
8	呼吸器系の身体機能評価：ADL やQOLの評価			事前学修：左記内容についてテキストや他書籍で内容を確認しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる						30	30	
9	肺機能検査・酸塩基平衡（動脈 血液ガス）			事前学修：左記内容についてテキストや他書籍で内容を確認しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる						30	30	
10	X線画像の評価			事前学修：左記内容についてテキストや他書籍で内容を確認しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる						30	30	
11	循環器系の身体機能評価：血 圧・脈拍測定			事前学修：左記内容についてテキストや他書籍で内容を確認しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる						30	30	
12	循環器系の身体機能評価：運動 機能検査			事前学修：左記内容についてテキストや他書籍で内容を確認しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる						30	30	
13	循環器系の身体機能評価：運動 耐容能と身体活動量			事前学修：左記内容についてテキストや他書籍で内容を確認しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる						30	30	
14	循環器系の身体機能評価：ADL やQOLの評価			事前学修：左記内容についてテキストや他書籍で内容を確認しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる						30	30	
15	循環器系の身体機能評価：リス クの層別化			事前学修：左記内容についてテキストや他書籍で内容を確認しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる						30	30	
アクティ ブ・ラー ニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（バイタルサイン）											
教科書	「内部障害理学療法学テキスト」 南江堂											
参考文献												
備考	2 クラスに分かれて実施する。											

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
担当教員は、理学療法分野で5年以上の実務経験と理学療法士資格を有しており、かつ臨床および研究において内部障害分野に専門的に従事してきており、より専門的、具体的な教育が可能である

						科目ナンバリング				
						RPMc06				
学修成果	1	2	3	4	5					
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力					
			●							
科目名	理学療法評価学総合実習				単位 認定者	大友篤 小関友記		評価の方法	試験（実技）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		試験（レポート）	20 %
						授業時間数	40 時間			
					授業形態	実習	授業回数		20 回	
授業の概要	本科目では、各疾患における運動器障害、神経障害、内部障害の理学療法評価について、基本的な知識や技術及び検査結果の解釈など一連の理学療法評価について総合的に実践する。OSCE（客観的臨床能力試験）を通して、コミュニケーションスキル、医療従事者としての心構えや情意面（態度・習慣などの人間性）などを身につけることを目的とする。									
到達目標	1. 各症例を想定した患者に基本的な検査・測定ができ、状況に応じた対処（触れ方、話し方）が実践できる。 2. 基本的な記録と報告ができ、検査結果の解釈ができるようになる。									
学修者への期待等	各評価の意義や測定方法を十分に復習したうえで授業に臨んでください。動きやすい服装で参加してください。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	関節可動域測定				事前学修：教科書p172～193を予習する 事後学修：学習内容を基に実技練習を行う		30	60	大友 篤 佐々木 広人	
2	客観的臨床能力試験（OSCE）の概要				事前学修：教科書p2～14を予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する		30	30	佐々木 広人	
3	感覚検査				事前学修：教科書p275～290を予習する 事後学修：学習内容を基に実技練習を行う		30	60	小関 友記 森永 雄	
4	筋力測定				事前学修：教科書p194～226を予習する 事後学修：学習内容を基に実技練習を行う		30	60	大友 篤 佐々木 広人	
5	標準予防策、リスク管理				事前学修：教科書p16～34を予習する 事後学修：学習内容を基に実技練習を行う		30	30	伊藤 大亮	
6	反射検査（腱反射・病的反射）				事前学修：教科書p291～301を予習する 事後学修：学習内容を基に実技練習を行う		30	60	小関 友記 森永 雄	
7	療法士面接				事前学修：教科書p120～139を予習する 事後学修：学習内容を基に実技練習を行う		30	30	伊藤 大亮	
8	脳卒中の麻痺側運動機能の評価				事前学修：教科書p312～330を予習する 事後学修：学習内容を基に実技練習を行う		30	60	小関 友記 森永 雄	
9	形態測定				事前学修：教科書p227～241を予習する 事後学修：学習内容を基に実技練習を行う		30	60	大友 篤 佐々木 広人	
10	脈拍と血圧の測定				事前学修：教科書p140～156を予習する 事後学修：学習内容を基に実技練習を行う		30	30	伊藤 大亮	
11	運動失調検査				事前学修：教科書p356～369を予習する 事後学修：学習内容を基に実技練習を行う		30	60	小関 友記 森永 雄	
12	整形外科疾患別検査				事前学修：教科書p242～263を予習する 事後学修：学習内容を基に実技練習を行う		30	60	大友 篤 佐々木 広人	
13	呼吸パターンと動脈血酸素飽和度の評価				事前学修：教科書p157～1171を予習する 事後学修：学習内容を基に実技練習を行う		30	30	伊藤 大亮	
14	バランス検査				事前学修：教科書p370～381を予習する 事後学修：学習内容を基に実技練習を行う		30	60	小関 友記 森永 雄	

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
15	医用画像を含む運動器障害の模擬症例に対する一連の検査・測定（評価項目の列挙）	事前学修：UNIPAの配付資料を予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する	30	30	大友 篤 佐々木 広人
16	医用画像を含む神経障害の模擬症例に対する一連の検査・測定（評価項目の列挙）	事前学修：UNIPAの資料を予習する。 事後学修：模擬症例に対する評価について、必要な検査測定とリスク管理、得られた結果について考察する。	30	30	小関 友記 森永 雄
17	医用画像を含む運動器障害の模擬症例に対する一連の検査・測定（検査測定）	事前学修：UNIPAの配付資料を予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する	30	30	大友 篤 佐々木 広人
18	医用画像を含む神経障害の模擬症例に対する一連の検査・測定（検査測定）	事前学修：UNIPAの資料を予習する。 事後学修：模擬症例に対する評価について、必要な検査測定とリスク管理、得られた結果について考察する。	30	30	小関 友記 森永 雄
19	医用画像を含む運動器障害の模擬症例に対する一連の検査・測定（結果の解釈）	事前学修：UNIPAの配付資料を予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する	30	30	大友 篤 佐々木 広人
20	医用画像を含む神経障害の模擬症例に対する一連の検査・測定（結果の解釈）	事前学修：UNIPAの資料を予習する。 事後学修：模擬症例に対する評価について、必要な検査測定とリスク管理、得られた結果について考察する。	30	30	小関 友記 森永 雄
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（OSCEならびに実習で必要となる検査測定手技を体得する。グループワークによる模擬症例を通じた課題解決型学修を行う。）				
教科書	「PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂版」金原出版 ISBN 978-4-307-75058-5				
参考文献					
備考	予習では教科書を一読し、不明な部分を確認して、講義内で解決するようにしてください。 実技可能な服装で参加してください。 模擬症例に対するフィードバックは授業内にて実施します。 2クラスに分かれて実施する。				

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

担当教員は理学療法分野で5年以上の実務経験を有しており、その経験を活かして学生が理学療法評価について理解を深め、臨床現場に繋げることができるような実践的な授業を行います。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	RPMd02				
			●	●						
科目名	運動器障害理学療法学演習				単位認定者	原 和彦 坂上 尚穂		評価の方法	試験（実技）	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3 年	開講時期	後期	単位数	2 単位		授業内課題（レポート等）	50 %
						授業時間数	60 時間			
					授業形態	演習	授業回数			30 回
授業の概要	本科目では、様々な運動器疾患における病態、画像所見、理学的所見、ADL評価、動作分析などから骨関節障害の理学療法評価過程を理解した上で、治療プログラムを立案し、治療技術を演習を通して実践する。また、具体的な症例を提示し、それに対する理学療法評価、治療プログラムの立案と治療を実践し、各疾患における理学療法の過程について理解できるようになることを目的とする。									
到達目標	1. 運動器障害の特徴と病態を理解したうえで理学療法評価、治療プログラム立案・実践をすることができる。 2. 実践的に用いられる理学療法技術、臨床推論をもとに理解を深めることができる。									
学修者への期待等	実技中心の授業ですので、動きやすい服装で参加してください。									
回	授業計画・学修の主題			準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	担当教員	
1	運動器障害に対する基本的理学療法評価			事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する			30	30	原 和彦 佐々木 広人	
2	関節可動域運動			事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する			30	30	坂上 尚穂 佐々木 広人	
3	ストレッチング			事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する			30	30	坂上 尚穂 佐々木 広人	
4	筋力増強運動			事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する			30	30	坂上 尚穂 佐々木 広人	
5	上腕骨骨折に対する評価と治療			事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する			30	30	大友 篤 佐々木 広人	
6	前腕骨・手部の骨折の評価と治療			事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する			30	30	大友 篤 佐々木 広人	
7	大腿骨骨折の評価			事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する			30	30	大友 篤 佐々木 広人	
8	大腿骨骨折の治療			事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する			30	30	大友 篤 佐々木 広人	
9	膝・下腿骨骨折の評価			事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する			30	30	大友 篤 佐々木 広人	
10	膝・下腿骨骨折の治療			事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する			30	30	大友 篤 佐々木 広人	
11	足関節疾患に対する評価			事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する			30	30	大友 篤 佐々木 広人	
12	足関節疾患に対する治療			事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する			30	30	大友 篤 佐々木 広人	
13	変形性股関節症の評価（保存・手術）			事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する			30	30	大友 篤 佐々木 広人	
14	変形性股関節症の治療（保存・手術）			事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する			30	30	大友 篤 佐々木 広人	
15	変形性膝関節症の評価（保存・手術）			事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する			30	30	大友 篤 佐々木 広人	

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
16	変形性膝関節症の治療（保存・手術）	事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する	30	30	大友 篤 佐々木 広人
17	肩関節疾患の評価	事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する	30	30	大友 篤 佐々木 広人
18	肩関節疾患の治療	事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する	30	30	大友 篤 佐々木 広人
19	頸部疾患に対する評価	事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する	30	30	坂上 尚穂 佐々木 広人
20	頸部疾患に対する治療	事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する	30	30	坂上 尚穂 佐々木 広人
21	腰部疾患に対する評価	事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する	30	30	坂上 尚穂 佐々木 広人
22	腰部疾患に対する治療	事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する	30	30	坂上 尚穂 佐々木 広人
23	膝靭帯損傷・半月板損傷の評価	事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する	30	30	大友 篤 佐々木 広人
24	膝靭帯損傷・半月板損傷の治療	事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する	30	30	大友 篤 佐々木 広人
25	末梢神経損傷に対する評価と治療	事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する	30	30	坂上 尚穂 佐々木 広人
26	関節リウマチに対する評価と治療	事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する	30	30	坂上 尚穂 佐々木 広人
27	症例検討1 グループワーク：情報収集、検査・測定項目の立案	事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する	30	30	大友 篤 佐々木 広人
28	症例検討2 グループワーク：統合と解釈、問題点抽出	事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する	30	30	大友 篤 佐々木 広人
29	症例検討3 グループワーク：ゴール設定、治療プログラム立案	事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する	30	30	大友 篤 佐々木 広人
30	症例検討4 グループワーク：治療プログラムの実践	事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する	30	30	原 和彦 大友 篤 佐々木 広人
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（PBL、グループワーク）				
教科書	『Crosslink理学療法テキスト 運動器障害理学療法学』加藤浩 編、Medical View、ISBN 978-4-7583-2001-6				
参考文献	『最新理学療法学講座』木藤伸容 編著、医歯薬出版株式会社、ISBN978-4-263-26739-4 『シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト改訂第3版』細田多穂 監修、南江堂、ISBN 978-4-524-24983-1				
備考	・提出されたレポートは、修正意見を付して返却します。 2クラスに分かれて実施する。				

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

担当教員は理学療法分野で5年以上の実務経験と理学療法士資格を有しており、その経験を活かし上記病態を理解し、治療・指導を修得することで、実際の臨床現場に繋げることができるような授業を行います。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング						
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFb14						
			●	●								
科目名	神経障害理学療法学演習				単位 認定者	網本 和 大和田 宏美			評価 の方法	試験（筆記）	60	%
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3 年	開講時期	後期	単位数	2 単位			試験（レポート）	20	%
						授業時間数	60 時間			試験（実技）	20	%
					授業形態	演習	授業回数	30 回				
授業の概要	本科目では、脳卒中中の障害像を理解し、脳卒中中の病態、画像所見、理学的所見、ADL評価、動作分析などから脳卒中中の理学療法評価過程を理解した上で、治療プログラムを立案し、治療技術を修得する。また、具体的な症例を提示し、それに対する理学療法評価、治療プログラムの立案と治療を実践し、脳卒中中の理学療法について理解できるようになることとする。											
到達目標	本講義においては、中枢神経に関する解剖学、生理学、運動学と神経系理学療法学で学んだ知識を基礎に、どのように臨床でその知識が用いられ、神経系理学療法治療技術が成立しているのかを学修する。 そのためには、以下の具体的目標が到達されることが求められる。 1. 脳卒中中の理学療法を実施するために必要な脳画像所見を理解できるようになる。 2. 脳卒中患者の姿勢・動作の分析ができるようになる。 3. 脳卒中患者に対する理学療法評価および理学療法を立案することができるようになる。 4. 脳卒中患者の症例検討を通じて、統合と解釈ができるようになる。											
学修者への期待等	この講義では、脳卒中患者の障害像を理解し、脳卒中患者の理学療法を実践する上でのリスク管理、理学療法評価、理学療法の治療について、演習をとおして学びます。脳卒中中の理学療法を行う上で重要な科目となりますので、日々の学修の中で、予習・復習をしっかりとこなってください。											
回	授業計画・学修の主題				準備学修			事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員		
1	中枢神経障害に対する障害像				事前学修：神経障害の障害像について考えておく。 事後学修：授業内容を復習する。			30	30	網本 和		
2	脳画像所見と理学療法評価①：脳出血症例など				事前学修：UNIPA資料を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。			30	30	網本 和		
3	脳画像所見と理学療法評価②：脳梗塞症例など				事前学修：UNIPA資料を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。			30	30	網本 和		
4	理学療法評価①：背臥位・座位・立位姿勢の評価				事前学修：UNIPA資料を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。			30	30	網本 和 大和田 宏美		
5	理学療法評価②：立ち上がり動作、歩行動作の評価				事前学修：UNIPA資料を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。			30	30	網本 和 大和田 宏美		
6	動作分析①脳卒中患者の基本動作分析について				事前学修：UNIPA資料を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。			30	30	網本 和 森永 雄		
7	動作分析②脳卒中患者の寝返り動作の障害と評価				事前学修：UNIPA資料を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。			30	30	網本 和 森永 雄		
8	動作分析③脳卒中患者の起き上がり動作の障害と評価				事前学修：UNIPA資料を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。			30	30	網本 和 森永 雄		
9	動作分析④脳卒中患者の立ち上がり動作の障害と評価				事前学修：UNIPA資料を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。			30	30	網本 和 森永 雄		
10	動作分析⑤脳卒中患者の歩行障害				事前学修：UNIPA資料を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。			30	30	網本 和 森永 雄		
11	動作分析⑥脳卒中患者の歩行評価と分析				事前学修：UNIPA資料を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。			30	30	網本 和 森永 雄		
12	運動学習理論に基づいた理学療法				事前学修：UNIPA資料を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。			30	30	網本 和		
13	理学療法の実践①：急性期のポジショニング、愛護的関節可動域練習				事前学修：教科書p34-41を予習する。 事後学修：授業内容を基に実技練習を行う。			30	60	大和田 宏美 森永 雄		
14	理学療法の実践②：急性期の早期離床、ベッド上での理学療法				事前学修：UNIPA資料を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。			30	30	大和田 宏美 森永 雄		
15	理学療法の実践③：基本動作練習				事前学修：UNIPA資料を予習する。 事後学修：授業内容を基に実技練習を行う。			30	60	大和田 宏美 森永 雄		

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
16	理学療法の実践④：歩行練習のアプローチ	事前学修：UNIPA資料を予習する。 事後学修：授業内容を基に実技練習を行う。	30	60	大和田 宏美 森永 雄
17	理学療法の実践⑤：歩行に合わせた装具（長下肢装具と短下肢装具）の適応とその歩行練習のアプローチ	事前学修：UNIPA資料を予習する。 事後学修：授業内容を基に実技練習を行う。	30	60	大和田 宏美 森永 雄
18	理学療法の実践⑥：日常生活活動・動作練習	事前学修：UNIPA資料を予習する。 事後学修：授業内容を基に実技練習を行う。	30	60	大和田 宏美 森永 雄
19	理学療法の実践⑦：その他の理学療法アプローチ（CI療法など）	事前学修：UNIPA資料を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。	30	60	大和田 宏美 森永 雄
20	理学療法の実践⑧社会資源の活用と生活環境調整	事前学修：UNIPA資料を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。	30	30	大和田 宏美 森永 雄
21	認知神経リハビリテーション	事前学修：UNIPA資料を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。	30	30	大和田 宏美 小関 友記
22	症例検討①脳血管障害（急性期）：情報収集と理学療法評価の理解	事前学修：教科書p2, p21-p41を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。	60	30	大和田 宏美 小関 友記
23	症例検討①脳血管障害（急性期）：ICFと治療アプローチの検討	事前学修：教科書p42-p46を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。	60	30	大和田 宏美 小関 友記
24	症例検討①脳血管障害（急性期）：理学療法の実際	事前学修：症例に対する理学療法を検討する。 事後学修：発表のスライドを作成する。	30	60	大和田 宏美 小関 友記
25	症例検討①脳血管障害（急性期）：症例発表会	事前学修：発表に備えてスライド作成を行う。 事後学修：発表後のフィードバックから症例についてまとめておく。	60	30	大和田 宏美 小関 友記
26	症例検討②脳血管障害（回復期・生活期）：情報収集と理学療法評価の理解	事前学修：教科書p54-p107を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。	60	30	大和田 宏美 小関 友記
27	症例検討②脳血管障害（回復期・生活期）：ICFと治療アプローチの検討	事前学修：教科書p54-p107を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。	60	30	大和田 宏美 小関 友記
28	症例検討②脳血管障害（回復期・生活期）：理学療法の実際	事前学修：症例に対する理学療法を検討する。 事後学修：発表のスライドを作成する。	60	30	大和田 宏美 小関 友記
29	症例検討②脳血管障害（回復期・生活期）：症例発表会	事前学修：発表に備えてスライド作成を行う。 事後学修：発表後のフィードバックから症例についてまとめておく。	60	30	大和田 宏美 小関 友記
30	脳卒中患者の理学療法予後予測と展望	事前学修：UNIPA資料を予習する。 事後学修：授業内容について総復習する。	30	60	網本 和
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（実技、グループワーク、症例検討後のグループ発表）				
教科書	「理学療法アクティブラーニングテキスト 神経障害理学療法学」文光堂ISBN：978-4-8306-4592-1				
参考文献	①「病気が見えるVol.7 脳・神経 第2版」MEDIC MEDIA ISBN978-4-89632-686-4 ②「Crosslink 理学療法学テキスト 神経障害理学療法学Ⅱ 神経筋障害」中山 恭秀編集 MEDICALVIEW ISBN978-4-7583-2003-0 ③「Crosslink理学療法学テキスト 神経障害理学療法学Ⅰ」鈴木俊明編集 MEDICALVIEW ISBN978-4-7583-2002-3 ④「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学」第6版 川平和美編集 医学書院 ISBN978-4-260-05667-0				
備考	試験およびレポート等のフィードバックは、UNIPAの掲示機能を通じて行います。2クラスに分かれて実施する。				

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

担当教員は、理学療法分野で5年以上の実務経験と理学療法士資格を有しており、その経験や研究活動を活かして、学生が脳卒中について理解を深め、症例に即した理学療法評価および理学療法の実践につながるよう演習を通して学ぶ授業を行います。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)	
担当教員はいずれも、理学療法分野で5年以上の実務経験と理学療法士資格を有しており、かつ臨床および研究において内部障害分野に専門的に従事してきており、より専門的、具体的な教育が可能である	

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	RPMd07					
			●	●							
科目名	内部障害理学療法学演習					単位 認定者	伊橋 光二		評価の 方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3 年	開講時期	後期	単位数	2 単位	授業内課題 （レポート 等）		30 %	
						授業時間数	60 時間				
					授業形態	演習	授業回数			30 回	
授業の概要	本科目では、内部障害における代表疾患の特性と病態を理解し、内部障害に起因する機能・運動障害の病態、その回復過程と予後に関する知識をもとに、リスク管理、画像所見、理学療法評価、呼吸器障害・循環器障害・代謝障害の運動療法、ADL指導、生活環境支援のための理論と技術を修得する。また、具体的な症例を提示し、それに対する理学療法評価、治療プログラムの立案と治療を実践し、内部障害の理学療法について理解できるようになることと目的とする。										
到達目標	内部障害領域の呼吸器系、循環器系、代謝系のリハビリテーションに対する理解を深め、各領域分野の役割と実際について学ぶことを目標とする。 1. 呼吸器系・循環器系・代謝系の特徴を理解し、内部障害のリハビリテーションを実施できるようになる。 2. 他疾患に合併する場合でも、疾患のリスクを把握し運動療法を実施できるようになる。										
学修者への 期待等	呼吸障害に対する理学療法では治療技術の習得も重要であり、授業時間外での実技練習に励まれるよう期待する。										
回	授業計画・学修の主題				準備学修			事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	内部障害に対する理学療法総論				事前学修：UNIPA配付資料を予習する。 事後学修：学んだ内容をまとめる			30	30	伊橋 光二	
2	呼吸器障害に対する理学療法：コンディショニング				事前学修：UNIPA配付資料を予習する。 事後学修：技術習得のため実技練習をする。			30	30	伊橋 光二	
3	呼吸器障害に対する理学療法：ADLトレーニング				事前学修：UNIPA配付資料を予習する。 教科書18章を予習する。 事後学修：技術習得のため実技練習をする。			30	30	伊橋 光二	
4	心電図①：成立ち、活動電位、刺激伝導系について				事前学修：左記内容について、配付資料、テキスト、その他書籍で予習しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる			30	30	伊藤 大亮 高田 拓明	
5	呼吸器障害に対する理学療法：運動療法				事前学修：UNIPA配付資料を予習する。 事後学修：技術習得のため実技練習をする。			30	30	伊橋 光二	
6	心電図②：心電図波形の基本				事前学修：左記内容について、配付資料、テキスト、その他書籍で予習しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる			30	30	伊藤 大亮 高田 拓明	
7	呼吸器障害に対する理学療法：呼吸助手法①上部・下部胸郭助手法				事前学修：UNIPA配付資料を予習する。 事後学修：技術習得のため実技練習をする。			30	60	伊橋 光二	
8	心電図③：主な異常心電図所見				事前学修：左記内容について、配付資料、テキスト、その他書籍で予習しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる			30	30	伊藤 大亮 高田 拓明	
9	呼吸器障害に対する理学療法：呼吸助手法②側臥位助手法				事前学修：UNIPA配付資料を予習する。 事後学修：技術習得のため実技練習をする。			30	60	伊橋 光二	
10	循環器障害に対する理学療法：リスク管理				事前学修：左記内容について、配付資料、テキスト、その他書籍で予習しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる			30	30	伊藤 大亮 高田 拓明	
11	呼吸器障害に対する理学療法：呼吸助手法③体位排痰法				事前学修：UNIPA配付資料を予習する。 事後学修：技術習得のため実技練習をする。			30	60	伊橋 光二	
12	循環器障害に対する理学療法：運動強度と運動処方				事前学修：左記内容について、配付資料、テキスト、その他書籍で予習しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる			30	30	伊藤 大亮 高田 拓明	
13	呼吸器障害に対する理学療法：人工呼吸器（NPPV含む）				事前学修：UNIPA配付資料を予習する。 教科書22章を予習する。 事後学修：学んだ内容をまとめる			30	30	伊橋 光二	
14	呼吸器障害に対する理学療法：在宅酸素療法				事前学修：UNIPA配付資料を予習する。 事後学修：学んだ内容をまとめる			30	30	伊橋 光二	
15	症例検討：循環器疾患を通じたグループワーク①（問題点の抽出）				事前学修：これまで学んだ内容を復習しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる			30	30	伊藤 大亮 高田 拓明	

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
16	吸引と呼吸ケア①：吸引・口腔ケアの意義や基礎知識	事前学修：UNIPA配付資料を予習する。 教科書23章を予習する。 事後学修：次回の実習に備えて復習する。	30	30	伊橋 光二
17	吸引と呼吸ケア②：吸引・口腔ケアの実習	事前学修：UNIPA配付資料を予習する。 事後学修：学んだ内容をまとめる	30	30	伊橋 光二
18	症例検討：循環器疾患を通じたグループワーク②（治療プログラムの立案）	事前学修：これまで学んだ内容を復習しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる	30	30	伊藤 大亮 高田 拓明
19	症例検討：急性期の呼吸器疾患を通じたグループワーク①（問題点の抽出）	事前学修：UNIPA配付資料を予習する。 教科書症例問題を予習する。 事後学修：発表の準備をする。	30	60	伊橋 光二
20	症例検討：急性期の呼吸器疾患を通じたグループワーク②（治療プログラムの立案）	事前学修：UNIPA配付資料を予習する。 事後学修：レポートを作成する。	30	60	伊橋 光二
21	代謝障害に対する理学療法：リスク管理	事前学修：左記内容について、配付資料、テキスト、その他書籍で予習しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる	30	30	伊藤 大亮 高田 拓明
22	症例検討：慢性期の呼吸器疾患を通じたグループワーク①（問題点の抽出）	事前学修：UNIPA配付資料を予習する。 教科書症例問題を予習する。 事後学修：発表の準備をする。	30	60	伊橋 光二
23	症例検討：慢性期の呼吸器疾患を通じたグループワーク②（治療プログラムの立案）	事前学修：UNIPA配付資料を予習する。 事後学修：レポートを作成する。	30	60	伊橋 光二
24	代謝障害に対する理学療法：運動強度と運動処方	事前学修：左記内容について、配付資料、テキスト、その他書籍で予習しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる	30	30	伊藤 大亮 高田 拓明
25	簡易運動耐容能検査①：6分間歩行テストの実習	事前学修：運動耐容能検査について調べてまとめる 事後学修：学んだ内容をまとめる	30	30	伊藤 大亮
26	簡易運動耐容能検査②：シャトルウォーキングテストの実習	事前学修：運動耐容能検査について調べてまとめる 事後学修：学んだ内容をまとめる	30	30	伊藤 大亮
27	症例検討：代謝性疾患を通じたグループワーク	事前学修：学んだ代謝性疾患について復習しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる	30	30	伊藤 大亮 高田 拓明
28	心肺運動負荷試験①：運動生理	事前学修：左記内容について、配付資料、テキスト、その他書籍で予習しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる	30	30	伊藤 大亮
29	心肺運動負荷試験②：評価指標	事前学修：左記内容について、配付資料、テキスト、その他書籍で予習しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる	30	30	伊藤 大亮
30	心肺運動負荷試験③：実習	事前学修：左記内容について、配付資料、テキスト、その他書籍で予習しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる	30	30	伊藤 大亮
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（実技、グループワーク、問題点の抽出、治療プログラムの立案）				
教科書	「内部障害理学療法学テキスト」山崎裕司ら編、南江堂、ISBN□978-4-524-23117-1				
参考文献	「呼吸リハビリテーションマニュアルー運動療法―第2版」日本呼吸ケア・リハビリテーション学会、他、照林社 ISBN978-4-7965-2278-6				
備考	2クラスに分かれて実施する。				

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）					
担当教員はいずれも、理学療法分野で5年以上の実務経験と理学療法士資格を有しており、かつ臨床および研究において内部障害分野に専門的に従事してきており、より専門的、具体的な教育が可能である					

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	RPMd13				
			●	●						
科目名	義肢装具学演習				単位 認定者	原 和彦		評価の 方法	授業内課題 （レポート等）	55 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題（小テ スト）	45 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	
							授業回数		15 回	
授業の概要	本科目は、義肢装具学で学修した知識をもとに、義肢・装具の適合判定及び装具療法、義肢・装具を使用した理学療法を行うために必要な知識と技術を、実際の義肢装具を用いた演習で修得する。また、切断端管理法についての基本的な知識を修得し、切断患者の断端管理や評価方法及び理学療法の実践についても学修する。									
到達目標	①装具の機能（目的）を理解し、適応となる疾患が説明できるようになる。 ②各疾患と機能構造障害との関連性をふまえ最適な装具を選択できるようになる。 ③義足の機能（目的）を理解し、患者さんの状況に合わせた義足を選択できるようになる。 ④義足・身体の問題と異常歩行との関連性が説明できるようになる。									
学修者への 期待等	その人の生活や人生を支える義肢装具の適応を正しく評価する臨床マインドをもって演習に望むことを期待しています。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修				事前学 修時間 (分)	事後学 修時間 (分)
1	義肢・装具の総論				事前学修：義肢装具学第1回、8回授業資料、教科書15、1を読み復習しておくこと。 事後学修：義肢装具学の授業資料を復習し義肢装具の分類、機能を復習し理解しておくこと。				30	30
2	下肢装具のアライメントと チェックアウト				事前学修：教科書5下肢装具のチェックアウトを読み「調べておこう」について調べておくこと。 事後学修：授業資料を復習し「行動目標」「学習到達度自己評価問題」を理解しておくこと。				30	30
3	下肢装具の適合評価				事前学修：第2回の復習を行っておくこと。 事後学修：下肢装具の調整によるアライメント変化と影響について理解しておくこと。				30	30
4	装具歩行分析（装着・歩行）				事前学修：運動学実習にて行った歩行の各パラメータについて復習を行っておくこと。 事後学修：装具装着歩行で学んだ分析事項をまとめること。				30	30
5	下肢装具の製作過程				事前学修：教科書33義肢、装具の製作工程を読み「調べておこう」について調べておくこと。また動画も一覧しておくこと。 事後学修：授業資料を復習し「行動目標」「学習到達度自己評価問題」を理解しておくこと。				30	30
6	疾患別下肢装具の適応とチェッ クアウト				事前学修：第2・3回の授業資料、教科書5下肢装具のチェックアウトを復習し、事前に提示する課題について確認しておくこと。 事後学修：課題についてまとめレポートを作成する。				30	30
7	靴型装具の適応とチェックアウ ト				事前学修：義肢装具学第13回の授業資料、教科書5下肢装具のチェックアウトDを復習し、事前に提示する課題について確認しておくこと。 事後学修：課題についてまとめレポートを作成する。				30	30
8	上肢装具の適応とチェックアウ ト				事前学修：義肢装具学第14回の授業資料を復習、教科書6上肢装具のチェックアウトを読み、事前に提示する課題について確認しておくこと。 事後学修：課題についてまとめレポートを作成する。				30	30
9	体幹装具の適応とチェックアウ ト				事前学修：義肢装具学第14回の授業資料を復習、教科書9頸部体幹装具のチェックアウトを読み、事前に提示する課題について確認しておくこと。 事後学修：課題についてまとめレポートを作成する。				30	30
10	断端評価（前後径、左右径、断 端長、周径、パッチテスト）				事前学修：教科書18、19切断者の評価①②を読み「調べておこう」について調べておくこと。 事後学修：授業資料を復習し「行動目標」「学習到達度自己評価問題」を理解しておくこと。				30	30
11	断端ケア（弾性包帯法、義足装 着前練習）				事前学修：教科書20断端管理法を読み「調べておこう」について調べておくこと。 事後学修：授業資料を復習し「行動目標」「学習到達度自己評価問題」を理解しておくこと。				30	30
12	大腿義足の分類とアライメント 評価（ソケット・パーツ適合評 価）				事前学修：義肢装具学第6回の授業資料を復習、教科書27異常歩行分析と指導、アライメントを読み、事前に提示する課題について確認しておくこと。 事後学修：課題についてまとめレポートを作成する。				30	30
13	下腿義足の分類とアライメント 評価（ソケット・パーツ適合評 価）				事前学修：義肢装具学第6回の授業資料を復習、教科書27異常歩行分析と指導、アライメントを読み、事前に提示する課題について確認しておくこと。 事後学修：課題についてまとめレポートを作成する。				30	30
14	義足異常歩行の原因と分析（模 擬義足装着歩行）				事前学修：義肢装具学第6回の授業資料を復習、教科書27異常歩行分析と指導、アライメントの動画を確認し、事前に提示する課題について確認しておくこと。 事後学修：課題についてまとめレポートを作成する。				30	30
15	多職種連携の実践				事前学修：第5回の授業資料を復習、教科書3義肢装具の給付制度を読み「調べておこう」について調べておくこと。 事後学修：義肢装具の分類、目的、機能、適応、チェックアウト、評価について復習し理解しておくこと。				30	30
アクティブ・ ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（義肢、装具体験、チェックアウト、レポート課題）									
教科書	『義肢装具学テキスト』細田多穂監修、改訂第4版、南江堂、ISBN974-524-20388-8									
参考文献	『切断と義肢 第3版』澤村誠志 著、医歯薬出版、ISBN978-4-263-26691-5									
備考	2クラスに分かれて実施する。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
運動器、中枢、切断の急性期、回復期の理学療法の長い臨床実務と研究を継続している。切断の理学療法の研究、学会活動を継続的にを行い、本科目教育との関連は深い。

学修成果		1 人間基盤力	2 連携協働力	3 専門実践力	4 学術探究力	5 課題解決力	科目ナンバリング RPM02				
		●	●	●	●	●					
科目名	臨床実習Ⅱ（評価実習）					単位 認定者	原 和彦		評価の 方法	実習内容	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T		必修	3年	開講時期	通年	単位数	4 単位			
						授業形態	実習	授業時間数		180 時間	
								授業回数		集中	
授業の概要	本科目では、臨床実習指導者の指導のもと、理学療法の対象者に対して、理学療法検査・測定を実施し、問題点の抽出、治療プログラムの立案及び治療目標の設定ができるようになることを目的とする。また、臨床実習の質的向上を図るために、「臨床実習前の評価」及び「臨床実習後の評価」も実施し、臨床現場における基本的な理学療法評価技術の修得を図る。										
到達目標	1) 利用者を尊重し、共感的態度をもって、良い人間関係を形成できる。 2) 職場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員として自覚をもった行動がとれる。 3) 理学療法の利用者に対して、基本的な理学療法評価（検査・測定）を体験し実践できる。 4) その検査・測定結果を解釈することができる。 5) 検査・測定結果をもとに、問題点の抽出、治療プログラムの立案および目標の設定ができるようになる。										
学修者への期待等	理学療法の検査・測定ならびに評価の理解を深めることを期待します。本講義の理解には理学療法評価学関連の講義内容を復習することが効果的です。実習施設で求められる医療人に相応しい接遇や行動を取るようしてください。										
授業計画・学修の主題									準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)
1. 実習期間 【1月第2週～2月第4週のうち4週】 2. 実習計画 1) 学内での臨床実習オリエンテーションに参加する。 2) 臨床実習施設での診療参加型臨床実習を基本とし、臨床実習指導者の指導のもと、理学療法の利用者に対して理学療法評価を実施する。 3) 担当する症例に対して、検査・測定結果を解釈し、利用者の問題点の抽出、治療プログラムの立案、治療目標を設定する。 4) 実習施設においては、毎日、臨床実習記録を臨床実習指導者に提出して指導を受ける。 5) 学内教員から、実習報告書の作成や、学内での実習セミナー（発表）について指導を受ける。 6) 以下を実施する。 ①実習前OSCE ②実習後OSCE 3. 成績評価 以下を成績評価項目とする。 なお、当該実習における欠席が、所定日数の5分の1を超えた場合は成績評価の対象から除外する。 成績評価項目 ・臨床実習記録（自己学修内容も含む） ・実習セミナー（発表） ・実習前OSCE / 実習後OSCE ※臨床実習指導者による実習生指導報告書の内容も踏まえて、総合的に判断する。									事前学修： ①理学療法検査・測定ならびに評価に関する知識・技術を確認する。 ②医療人・社会人に相応しい接遇や行動について再確認する。 ③実習施設の情報や理学療法の特色などについて調べる。 事後学修： ①臨床実習Ⅱで体験したことや実習先で得られた知識などをデイリーノートにまとめる。 ②実習の成果をスライドにまとめ発表する。 ③グループ内で経験した実習について情報を共有し、次の臨床実習との関係について検討する。	60	60
教科書	「PT症例レポート赤ペン添削 ビフォー&アフター」相澤純也ら編、羊土社、ISBN 978-4-7581-0214-8 「基礎編・ケースで学ぶ理学療法臨床思考」有馬慶美ら編、文光堂、ISBN 978-4-8306-4579-2 「運動療法エビデンスレビュー」松永篤彦ら編、文光堂、ISBN 978-4-8306-4565-5 「PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂版」金原出版 ISBN 978-4-307-75058-5										
参考文献											
備考	「臨床実習の手引き」（配付資料） 【担当教員】網本 和、原 和彦、伊橋 光二、大和田 宏美、大友 篤、坂上 尚穂、小関 友記、伊藤 大亮、佐々木 広人、森永 雄、鈴木 裕治										

科目名	臨床実習Ⅱ（評価実習）				単位 認定者	原 和彦		評価 の方法	実習内容	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3 年	開講時期	通年	単位数	4 単位			
						授業時間数	180 時間			
				授業形態	実習	授業回数	集中			
授業の概要	本科目では、臨床実習指導者の指導のもと、理学療法の対象者に対して、理学療法検査・測定を実施し、問題点の抽出、治療プログラムの立案及び治療目標の設定ができるようになることを目的とする。また、臨床実習の質的向上を図るために、「臨床実習前の評価」及び「臨床実習後の評価」も実施し、臨床現場における基本的な理学療法評価技術の修得を図る。									
到達目標	1) 利用者を尊重し、共感的態度をもって、良い人間関係を形成できる。 2) 職場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員として自覚をもった行動がとれる。 3) 理学療法の利用者に対して、基本的な理学療法評価（検査・測定）を体験し実践できる。 4) その検査・測定結果を解釈することができる。 5) 検査・測定結果をもとに、問題点の抽出、治療プログラムの立案および目標の設定ができるようになる。									
学者者への期待等	理学療法の検査・測定ならびに評価の理解を深めることを期待します。本講義の理解には理学療法評価学関連の講義内容を復習することが効果的です。実習施設で求められる医療人に相応しい接遇や行動を取るようになってください。									

授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)
1. 実習期間 【1月第2週～2月第4週のうち4週】 2. 実習計画 1) 学内での臨床実習オリエンテーションに参加する。 2) 臨床実習施設での診療参加型臨床実習を基本とし、臨床実習指導者の指導のもと、理学療法の利用者に対して理学療法評価を実施する。 3) 担当する症例に対して、検査・測定結果を解釈し、利用者の問題点の抽出、治療プログラムの立案、治療目標を設定する。 4) 実習施設においては、毎日、臨床実習記録を臨床実習指導者に提出して指導を受ける。 5) 学内教員から、実習報告書の作成や、学内での実習セミナー（発表）について指導を受ける。 6) 以下を実施する。 ①実習前OSCE ②実習後OSCE 3. 成績評価 以下を成績評価項目とする。 なお、当該実習における欠席が、所定日数の5分の1を超えた場合は成績評価の対象から除外する。 成績評価項目 ・臨床実習記録（自己学修内容も含む） ・実習セミナー（発表） ・実習前OSCE / 実習後OSCE ※臨床実習指導者による実習生指導報告書の内容も踏まえて、総合的に判断する。	事前学修： ①理学療法検査・測定ならびに評価に関する知識・技術を確認する。 ②医療人・社会人に相応しい接遇や行動について再確認する。 ③実習施設の情報や理学療法の特色などについて調べる。 事後学修： ①臨床実習Ⅱで体験したことや実習先で得られた知識などをデイリーノートにまとめる。 ②実習の成果をスライドにまとめ発表する。 ③グループ内で経験した実習について情報を共有し、次の臨床実習との関係について検討する。	60	60

教科書	「PT症例レポート赤ペン添削 ビフォー&アフター」相澤純也ら編、羊土社、ISBN 978-4-7581-0214-8 「基礎編・ケースで学ぶ理学療法臨床思考」有馬慶美ら編、文光堂、ISBN 978-4-8306-4579-2 「運動療法エビデンスレビュー」松永篤彦ら編、文光堂、ISBN 978-4-8306-4565-5 「PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂版」金原出版 ISBN 978-4-307-75058-5
参考文献	
備考	「臨床実習の手引き」（配付資料） 【担当教員】網本 和、原 和彦、伊橋 光二、大和田 宏美、大友 篤、坂上 尚穂、小関 友記、伊藤 大亮、佐々木 広人、森永 雄、鈴木 裕治

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)	
担当教員は理学療法分野で5年以上の実務経験を有しており、その経験を活かして学生が理学療法評価について理解を深め、臨床現場に繋げることができるような実践的な指導を行います。	

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	RPM05					
	●	●	●	●	●						
科目名	地域リハビリテーション実習				単位 認定者	未定		評価の方法	実習内容	100 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3 年	開講時期	通年	単位数	1 単位				
						授業時間数	45 時間				
					授業形態	実習	授業回数		集中		
授業の概要	本科目では、医療保険制度や介護保険制度を理解し、理学療法士の役割と関連専門職の役割について理解する。また、通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションなどを利用している対象者の生活環境やその支援方法などについて学修する。										
到達目標	1) 利用者を尊重し、共感的態度をもって、良い人間関係を形成できる。 2) 職場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員として自覚をもった行動がとれる。 3) 医療保険制度や介護保険制度を理解し、その中での理学療法士の役割を説明できる。 4) 対象者の生活環境やその支援方法などを説明できる。										
学修者への期待等	地域医療ならびに地域リハビリテーションについて理解を深めることを期待します。本講義の理解には地域理学療法を復習することが効果的です。実習施設で求められる医療人に相応しい接遇や行動を取るようによください。										
授業計画・学修の主題								準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	
1. 実習期間 【7月第4週～10月第4週のうち1週】 2. 実習計画 1) 学内での臨床実習オリエンテーションに参加する。 2) 臨床実習施設の臨床実習指導者による指導のもと、 地域リハビリテーションの流れを学び、利用者のおかれている状況を理解する。 3) 実習施設においては、毎日、臨床実習記録とケースノート(利用者に関する記録)を 臨床実習指導者に提出して指導を受ける。 4) 学内教員から、臨床実習記録および実習生指導報告書をふまえた指導を受ける。 3. 成績評価 以下を成績評価項目とする。 なお、当該実習における欠席が、所定日数の5分の1を超えた場合は成績評価の対象から除外する。 成績評価項目 ・臨床実習記録(自己学修内容も含む) ※臨床実習指導者による実習生指導報告書の内容も踏まえて、総合的に判断する。								事前学修： ①介護保険サービス、 障害者サービス、ケア マネジメント等に関する知識を身に付ける。 ②医療人・社会人に相 応しい接遇・行動につ いて再確認する。 ③実習先の通所・訪問 施設の情報や理学療法 の特色などについて調 べる。 事後学修： ①地域リハビリテー ション実習で体験した ことや実習先で得られ た知識などをデイリー ノートにまとめる。 ②実習の成果をスライ ドにまとめ発表する。 ③グループ内で経験し た実習について情報を 共有し、次回の臨床実 習との関係について検 討する。		60	60
教科書	適時、資料を配付する。										
参考文献	「標準理学療法学 専門分野 地域理学療法学」医学書院 「PT症例レポート赤ペン添削 ビフォー&アフター」、相澤純也ら編、羊土社										
備考	【担当教員】 網本 和、原 和彦、伊橋 光二、大和田 宏美、大友 篤、坂上 尚穂、 小関 友記、伊藤 大亮、佐々木 広人、森永 雄、鈴木 裕治										

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は理学療法分野で5年以上の実務経験を有しており、その経験を活かして学生が理学療法評価について理解を深め、臨床現場に繋げることができるような実践的な指導を行います。

学修成果	1 人間基盤力	2 連携協働力	3 専門実践力	4 学術探究力	5 課題解決力	科目ナンバリング RPMf01				
		●	●		●					
科目名	地域理学療法学				単位 認定者	未定		評価の方法	試験（筆記）	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3 年	開講時期	前期	単位数	1 単位			
						授業時間数	15 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	地域理学療法学とは、動作や活動への多面的な働きかけにより人々が地域でのくらしを主体的につくりあげられるよう探究する学問である。地域包括ケアシステムが展開されている現在、入所施設や通所施設、訪問における理学療法の知識を得るだけでなく、介護予防、健康増進、さらには災害時支援など医療機関以外でも理学療法が活用されていることを学び、理学療法の領域の広がりを理解する。そして、制度・分野ごとの「縦割り」や、「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が地域をともに創っていく社会「地域共生社会」について学修する。									
到達目標	1. 地域理学療法学の概念・考え方を理解することができる。 2. 地域理学療法の関連法規や多職種連携について理解を深めることができる。 3. 介護老人保健施設、通所・訪問施設などの理学療法の知識を深めることができる。									
学修者への期待等										
回	授業計画・学修の主題				準備学修				事前学 修時間 (分)	事後学 修時間 (分)
1	地域理学療法学とは				事前学修：教科書の第1章を読む 事後学修：授業内容を整理し、まとめる。				30	30
2	地域包括ケアシステムと地域連携				事前学修：教科書の第2章を読む 事後学修：授業内容を整理し、まとめる。				30	30
3	地域理学療法に関する制度				事前学修：教科書の第3章を読む 事後学修：授業内容を整理し、まとめる。				30	30
4	地域理学療法の方法論① 介護老人保健施設				事前学修：教科書の第5章の該当部分を読む 事後学修：授業内容を整理し、まとめる。				30	30
5	地域理学療法の方法論② 通所施設				事前学修：教科書の第5章の該当部分を読む 事後学修：授業内容を整理し、まとめる。				30	30
6	地域理学療法の方法論③ 訪問				事前学修：教科書の第5章の該当部分を読む 事後学修：授業内容を整理し、まとめる。				30	30
7	地域理学療法の方法論④ 健康増進・介護予防				事前学修：教科書の第5章を読む 事後学修：授業内容を整理し、まとめる。				30	30
8	地域理学療法の方法論⑤ 国際支援、災害時支援、これからの地域理学療法				事前学修：教科書の第7章を読む 事後学修：授業内容を整理し、まとめる。				30	30
アクティブ・ラーニング	☒ 該当なし ☐ 該当あり：キーワード（ ）									
教科書	「標準理学療法学 専門分野 地域理学療法学」医学書院 ISBN:978-4-260-05007-4									
参考文献										
備考										

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング		
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	RPMf02		
		●	●		●			
科目名	地域理学療法学演習				単位認定者	未定		
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3年	開講時期	後期	単位数	1 単位	
						授業時間数	30 時間	
				授業形態	演習	授業回数	15 回	
授業の概要	本科目では、地域理学療法学で学修した知識をもとに、在宅高齢者や障害者に対する具体的な理学療法士の支援について学修する。事例を通して、高齢者・障害者・障害児を含むあらゆる地域住民に対する具体的な理学療法士の支援について理解し、相談支援、訪問理学療法・通所サービスなど地域における理学療法士としての役割と実践について学修する。							
到達目標	1. 在宅高齢者や障害者に対する具体的な理学療法士の支援を理解することができる。 2. 現場体験談を傾聴し、実社会の問題を推し量る能力を高めることができる。 3. 地域における理学療法士としての役割を理解し、実践力を高めることができる。							
学修者への期待等								
回	授業計画・学修の主題	準備学修				事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	地域理学療法学の理念と背景	事前学修：地域理学療法について再学習する 事後学修：授業内容を整理する				30	30	未定
2	施設のリスクマネジメント	事前学修：リスクマネジメントについて再学習する 事後学修：授業内容を整理する				30	30	未定
3	病院・施設外のリスクマネジメント	事前学修：病院と施設のリスクマネジメントについて再学習する 事後学修：授業内容を整理する				30	30	未定
4	行政における理学療法士の役割	事前学修：行政の理学療法について再学習する 事後学修：授業内容を整理する				30	30	森永 雄
5	学校保健および特別支援教育	事前学修：学校保健の理学療法について再学習する 事後学修：授業内容を整理する				30	30	森永 雄
6	スポーツ活動支援	事前学修：スポーツ理学療法について再学習する 事後学修：授業内容を整理する				30	30	森永 雄
7	介護保険下の入所サービス	事前学修：入所サービスについて再学習する 事後学修：授業内容を整理する				30	30	森永 雄
8	介護保険下の通所サービス	事前学修：通所サービスについて再学習する 事後学修：授業内容を整理する				30	30	森永 雄
9	訪問における理学療法	事前学修：訪問リハについて再学習する 事後学修：授業内容を整理する				30	30	森永 雄
10	健康増進・介護予防	事前学修：健康増進、介護予防について再学習する 事後学修：授業内容を整理する				30	30	森永 雄
11	産業理学療法	事前学修：産業理学療法について再学習する 事後学修：授業内容を整理する				30	30	森永 雄
12	事例検討① 障害児と理学療法士の関わり	事前学修：障害児の理学療法について再学習する 事後学修：授業内容を整理する				30	30	森永 雄
13	事例検討② 在宅の脳血管障害と理学療法	事前学修：脳血管疾患の理学療法について再学習する 事後学修：授業内容を整理する				30	30	森永 雄
14	事例検討③ 在宅の神経変性疾患と理学療法	事前学修：神経変性疾患の理学療法について再学習する 事後学修：授業内容を整理する				30	30	森永 雄
15	事例検討④ 終末期の在宅理学療法	事前学修：終末期の地域理学療法について再学習する 事後学修：授業内容を整理する				30	30	森永 雄
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（症例ごとのグループワーク）							
教科書	指定しない							
参考文献	「標準理学療法学 専門分野 地域理学療法学」医学書院							
備考	2クラスに分かれて実施する。							

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReMa03					
	●	●	●	●	●						
科目名	トランスレーショナルセミナーⅢ				単位認定者	齋藤 佑樹		評価の方法	授業内課題 (レポート等)	80	%
対象学科 必修・選択 配当年次	O T	必修	3年	開講時期	通年	単位数	1 単位		授業内課題 (発表)	20	%
				授業時間数		30 時間					
	授業形態	演習 <th>授業回数</th> <td>15 回</td> <td></td> <td></td>	授業回数	15 回							
授業の概要	トランスレーショナルセミナーⅠ～トランスレーショナルセミナーⅣは、主体的・能動的な学修能力を形成しながら学びの充実度を高め、大学生活において重要な、学生間・学年間のつながりを築くための科目である。 トランスレーショナルセミナーⅢでは、様々な疾患を想定した臨床推論を、グループワークを通じて学修し、作業療法への理解を深めることに重点を置く。また、グループワークにおける症例検討を通して、自身とは異なる見解を受け入れ、問題解決のための思考力を身につける。										
到達目標	1. PBL形式での課題遂行において、状況に応じた検査・測定方法の選択ができる 2. 症例検討において、適宜質問を行い、他者の意見をふまえながら自分の考えを持つことができる										
学修者への期待等	課題解決型授業（PBL）や、学年や専攻を跨いだ共同作業があります。主体的な姿勢で授業に参加してください。										
回	授業計画				準備学修				事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)	
1	【1～3年生合同】作業療法を学ぶ意義				事前学修：特にありません 事後学修：授業内容をノートにまとめること				0	30	
2	【1～3年生合同】作業療法を学ぶということ ディスカッション				事前学修：特にありません 事後学修：授業内容をノートにまとめること				0	30	
3	グループワーク①作業療法の臨床現場、臨床実習について				事前学修：特にありません 事後学修：授業内容をノートにまとめること				0	30	
4	グループワーク②理想とする作業療法士像				事前学修：特にありません 事後学修：授業内容をノートにまとめること				0	30	
5	グループワーク③PBL形式検査・測定①(バイタル)				事前学修：バイタルサインの評価方法について復習しておくこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること				30	30	
6	グループワーク④PBL形式検査・測定②(ROM)				事前学修：ROMの測定方法について復習しておくこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること				30	30	
7	グループワーク⑤PBL形式検査・測定③(MMT)				事前学修：MMTの評価方法について復習しておくこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること				30	30	
8	グループワーク⑥PBL形式検査・測定④(FMA等)				事前学修：FMAの評価方法について復習しておくこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること				30	30	
9	グループワーク⑦事例検討(症例設定、評価項目の立案、評価結果の解釈)				事前学修：特にありません 事後学修：授業内容をノートにまとめること				0	30	
10	グループワーク⑧事例検討(統合と解釈、目標設定)				事前学修：前回の復習を行うこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること				30	30	
11	グループワーク⑨事例検討(症例設定、評価項目の立案、評価結果の解釈)				事前学修：前回の復習を行うこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること				30	30	
12	グループワーク⑩事例検討(統合と解釈、目標設定)				事前学修：前回の復習を行うこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること				30	30	
13	グループワーク⑪事例検討(症例設定、評価項目の立案、評価結果の解釈)				事前学修：前回の復習を行うこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること				30	30	
14	グループワーク⑫事例検討(統合と解釈、目標設定)				事前学修：前回の復習を行うこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること				30	30	
15	作業療法における臨床推論のまとめ				事前学修：前回の復習を行うこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること				30	30	
アクティブラーニング	□該当なし ☑該当あり：相互理解を深めるため、グループワークをベースとした授業を行います。										
教科書	適時、資料を配付する。										
参考文献	適宜、紹介する。										
備考	【担当教員】外里 富佐江、酒井 弘美、齋藤 佑樹、須藤 あゆみ、戸田 祐子、熊谷 竜太、高橋 慧										

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
担当教員は作業療法士資格を有し、作業療法分野で5年以上の実務経験がある。その経験を活かし、臨床力を養うための実践的な授業を行う。

						科目ナンバリング				
						ROMd12				
学修成果	1	2	3	4	5					
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力					
			●							
科目名	義肢装具学				単位認定者	齋藤 佑樹		評価の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	3年	開講時期	前期	単位数	2 単位		試験（実技）	30 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	義肢や装具は、リハビリテーション医療において日常生活や社会復帰を可能とする重要な手段のひとつである。リハビリテーション治療において義肢装具を用いるためには、上肢切断や関節リウマチなどの病態の理解が不可欠であるとともに、疾患の特性に応じた適応を十分に理解することが必要である。本科目では、義肢装具の構造、機能、種類、特徴、その適応、使用方法、義肢や装具の仕組みを学修し、実際の治療や日常生活での障害に応じた義肢装具の選択、使用方法に関する基本的な知識を修得する。									
到達目標	1. 義肢と装具の違いについて説明できる 2. 疾患別に適応する装具を理解し、作業療法的手段として適用できる									
学修者への期待等	解剖学・運動学から日常生活活動まで、幅広い知識を必要とする科目です。事前・事後学修を十分に行い、主体的に授業に参加することを期待します。									
回	授業計画・学修の主題			準備学修			事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	授業ガイダンス 義肢装具学概論			事前学修：教科書P2-7を読んでおくこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること			30	30	原 和彦	
2	義肢学総論(歴史・切断の原因・部位・分類)			事前学修：教科書P12-19を読んでおくこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること			30	30	原 和彦	
3	上肢切断の評価・ソケットの種類			事前学修：教科書P19-27を読んでおくこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること			30	30	齋藤 佑樹	
4	下肢切断の評価・ソケットの種類			事前学修：配付資料を事前に読んでおくこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること			30	30	原 和彦	
5	疾患別適応装具①(関節リウマチ)			事前学修：教科書P278-294を読んでおくこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること			30	30	齋藤 佑樹	
6	疾患別適応装具②(末梢神経損傷)			事前学修：教科書P334-351を読んでおくこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること			30	30	齋藤 佑樹	
7	疾患別適応装具③(頸髄損傷)			事前学修：教科書P294-302を読んでおくこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること			30	30	齋藤 佑樹	
8	切断の作業療法(断端の管理、筋力訓練、ADL訓練)			事前学修：教科書P15を読んでおくこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること			30	30	大山 峰生	
9	義肢(適応・分類・構造)			事前学修：教科書P18-41を読んでおくこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること			30	30	大山 峰生	
10	義肢(装着・操作訓練・義手のチェックアウト)			事前学修：教科書P53-64を読んでおくこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること			30	30	大山 峰生	
11	装具学総論(歴史・目的・分類)			事前学修：教科書P204-214を読んでおくこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること			30	30	大山 峰生	
12	スプリント制作準備			事前学修：教科書P215-222を読んでおくこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること			30	30	齋藤 佑樹	
13	スプリント作成①(型紙作り) 実技			事前学修：特にありません 事後学修：要点の復習をすること			0	30	齋藤 佑樹	
14	スプリント作成②(加工) 実技			事前学修：特にありません 事後学修：要点の復習をすること			0	30	齋藤 佑樹	
15	スプリント作成③(チェックアウト・まとめ)			事前学修：特にありません 事後学修：要点の復習をすること			0	30	齋藤 佑樹	
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：ペアワークを通してスプリント作成を行います。									
教科書	「義肢装具と作業療法 評価から実践まで」 医歯薬出版株式会社									
参考文献	「PT・OTビジュアルテキスト 義肢・装具学」 羊土社									
備考										

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)	
担当教員は作業療法士資格を有する。身体障害作業療法分野で14年の実務経験があり、義肢装具を用いた作業療法介入を多く経験してきた。この経験を活かし、臨床実践力を養う授業を行う。□	

学修成果	1 人間基盤力	2 連携協働力	3 専門実践力	4 学術探究力	5 課題解決力	科目ナンバリング ROME02					
	●	●	●	●	●						
科目名	臨床実習Ⅱ（評価実習）				単位 認定者	酒井 弘美		評価 の 方法	実習内容	100 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	3年	開講時期	通年	単位数	5 単位				
						授業時間数	225 時間				
				授業形態	実習	授業回数	集中				
授業の概要	医療チームの一員として臨床場面に参加しながら作業療法を経験し、技能を向上させることを目的とする。対象者の全体像把握のため、臨床実習指導者の指導のもと検査・測定を実施し、問題点の抽出、治療プログラムの立案及び治療目標の設定ができるよう学修する。実習の前後には、学内で客観的臨床能力試験（OSCE）を実施し、知識、技能、態度等を総合的に評価するとともに、実習後セミナーを通して臨床現場で身につけた知識の習熟を図っていく。										
到達目標	1. 臨床実習施設の特性や施設における作業療法(士)の役割と機能を学ぶ 2. 今まで学んだ作業療法の知識と技術・技能および態度を臨床場面に応用し、基本的な作業療法を実践することを体験する 3. リハビリテーションチームの一員としての役割を理解し、協調性のある態度を身につける 4. 作業療法士としての基本的な態度を身につける										
学修者への期待等	大学で学んだ知識や技術を自分なりに理解・整理してから実習に望むことで、実習が充実したものになるよう十分に準備してください。										
授業計画・学修の主題								準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)	
1. 実習期間 【1月第2週～2月第4週のうち4週】 2. 実習計画 1) 学内での臨床実習オリエンテーションに参加する。 2) 臨床実習施設での診療参加型臨床実習を基本とし、臨床実習指導者の指導のもと、作業療法の利用者に対して作業療法評価を実施する。 3) 担当する症例に対して、検査・測定結果を解釈し、利用者の問題点の抽出、治療プログラムの立案、治療目標を設定する。 4) 実習施設においては、毎日、臨床実習記録を臨床実習指導者に提出して指導を受ける。 5) 学内教員から、実習報告書の作成や、学内での実習セミナー（発表）について指導を受ける。 6) 以下を実施する。 ①実習前OSCE ②実習後OSCE 3. 成績評価 以下を成績評価項目とする。なお、当該実習における欠席が、所定日数の5分の1を超えた場合は成績評価の対象から除外する。 成績評価項目 ・臨床実習記録（自己学修内容も含む） ・実習セミナー（発表） ・実習前OSCE / 実習後OSCE ※臨床実習指導者による実習生指導報告書の内容も踏まえて、総合的に判断する。								事前学修：担当した症例について、疾患の概要や作業療法評価・介入等、これまでの授業内容を確認すること 事後学修：日々の臨床経験の記録と臨床実習指導者から提示された課題を行うこと		60	90
教科書	適時、資料を配付する。										
参考文献											
備考	【担当教員】外里 富佐江、酒井 弘美、齋藤 佑樹、須藤 あゆみ、戸田 祐子、熊谷 竜太、高橋 慧										

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

教員一覧

	氏名	電話番号	E-mail
1	あみもと かず 網本 和	022-308-2071 (代表)	k_amimoto@seiyogakuin.ac.jp
2	はら かずひこ 原 和彦		k_hara@seiyogakuin.ac.jp
3	いはし こうじ 伊橋 光二		k_ihashi@seiyogakuin.ac.jp
4	かねや さとみ 金谷 さとみ		s_kaneya@seiyogakuin.ac.jp
5	とざと ふさえ 外里 富佐江		f_tozato@seiyogakuin.ac.jp
6	ひらやま かずみ 平山 和美		k_hirayama@seiyogakuin.ac.jp
7	すずき ゆういち 鈴木 裕一		yi_suzuki@seiyogakuin.ac.jp
8	さかい ひろみ 酒井 弘美		h_sakai@seiyogakuin.ac.jp
9	さいとう ゆうき 齋藤 佑樹		yu_saitou@seiyogakuin.ac.jp
10	おおわだ ひろみ 大和田 宏美		h_oowada@seiyogakuin.ac.jp
11	おおとも あつし 大友 篤		a_ootomo@seiyogakuin.ac.jp
12	さかがみ ひさお 坂上 尚穂		h_sakagami@seiyogakuin.ac.jp
13	いとう だいすけ 伊藤 大亮		d_itou@seiyogakuin.ac.jp
14	すとう あゆみ 須藤 あゆみ		a_sutou@seiyogakuin.ac.jp
15	とだ ゆうこ 戸田 祐子		y_toda@seiyogakuin.ac.jp
16	こせき とものり 小関 友記		tm_koseki@seiyogakuin.ac.jp
17	ささき ひろと 佐々木 広人		ht_sasaki@seiyogakuin.ac.jp
18	もりなが ゆう 森永 雄		y_morinaga@seiyogakuin.ac.jp
19	すずき ゆうじ 鈴木 裕治		y_suzuki@seiyogakuin.ac.jp
20	くまがい りゅうた 熊谷 竜太		r_kumagai@seiyogakuin.ac.jp
21	たかはし さとし 高橋 慧		s_takahashi@seiyogakuin.ac.jp
22	こまつ よしのり 小松 佳路		ys_komatsu@seiyogakuin.ac.jp

実務経験を有する教員一覧

【リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 理学療法専攻】

科目名称	履修年次	単位数	教員氏名	実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性
法学入門	1年	1	鈴木 一樹	公認会計士として企業等の会計監査、税理士として税務業務、不動産鑑定士として鑑定評価業務に従事
経済と政策	1年	1	高橋 真	担当教員は、宮城県公立高校教員として11年「地理歴史科」「公民科」科目を担当し、また岩手大学と尚絅学院大学の教職課程担当者として20年「社会科教育法」を担当してきた。その経験に基づき、大学における経済学教育の実践的な教育指導法についての経験を有している。担当教員は学生の理解を高める授業を行います。 【免許・資格】中学校教諭一種・高等学校専修教員免許、大学設置審・教職課程設置担当科目合格教員
健康スポーツⅠ	1年	1	菅原 一昭	高等学校・専門学校教諭30年。保健体育科専修免許。宮城県マスタース陸上競技連盟理事長。JAAF公認ジュニアコーチ資格。
解剖学Ⅰ	1年	2	大和田 宏美	担当教員は、理学療法分野で5年以上の実務経験と理学療法士資格を有しており、その経験や研究活動を活かして、学生が解剖学について理解を深め、理学療法・作業療法を学んでいく上で必要な基礎医学の知識が身につくような授業を行います。
解剖学演習	1年	1	大和田 宏美	担当教員は、理学療法分野で5年以上の実務経験と理学療法士資格を有しており、その経験や研究活動を活かして、学生が解剖学について理解を深め、理学療法・作業療法を学んでいく上で必要な基礎医学の知識が身につくようグループワーク中心の演習を行います。
運動学総論	1年	1	原 和彦	医療福祉関連施設（大学病院、一般病院）での理学療法士としての実務経験を活かし、学生が身体運動の仕組みについて理解を深め、臨床現場に繋げることができるような授業を展開する。
運動学演習Ⅰ	1年	1	原 和彦 坂上 尚穂	担当教員は理学療法分野で5年以上の実務経験と理学療法士資格を有しており、その経験を活かして学生が人体の構造と機能について理解を深め、日常生活や臨床現場に繋げることができるような授業を行います。
運動学演習Ⅱ	1年	1	原 和彦 大友 篤	担当教員は理学療法分野で5年以上の実務経験と理学療法士資格を有しており、その経験を活かして学生が人体の構造と機能について理解を深め、日常生活や臨床現場に繋げることができるような授業を行います。
人間発達学	1年	1	外里 富佐江	科目担当者は15年以上の地域、病院、施設で作業療法士としての臨床経験を有し、人間発達学の教育経験は、8年以上有している。具体的に人間発達学の事例紹介が可能であり、わかりやすく解説する。
栄養学	1年	1	岩間 正典 高泉 佳苗	高泉…管理栄養士として病院に勤務した実務経験を有する。授業では病院での栄養管理業務の経験を活かした授業を行う。
救急救命学	1年	1	堀口 雅司	・救急救命士としての25年以上の実務経験を活用して、医療人の基礎となる安全管理・救急医療の重要性を教授する。 ・医療人の基本となる人間愛と思いやりの心を持った救急対応時の知識と技術を指導する。
リハビリテーション概論	1年	2	佐直 信彦	医学部卒業後東北大学医学部付属鳴子分院にて内科学全般を研修、リハビリテーション医学の臨床・教育・研究に13年間携わり、東北労災病院リハビリテーション科に18年間勤務し、リハビリテーション科専門医・脳卒中専門医等を取得、教科書作成にも関わった。その後、4年制大学及び短期大学でリハビリテーション概論及びリハビリテーション医学の講義を20年余にわたり担当した。
トランスレーショナルセミナーⅠ	1年	1	大和田 宏美 伊藤 大亮	担当教員はいずれも、理学療法分野で5年以上の実務経験と理学療法士資格を有しており、豊かな臨床経験をもとに、理学療法教育が可能である
臨床実習Ⅰ（体験実習）	1年	1	大和田 宏美	担当教員は、理学療法分野で5年以上の実務経験と理学療法士資格を有しており、その経験を活かして学生が理学療法についての理解を深め、臨床現場につなげることができるような実践的な授業を行います。
健康スポーツⅡ	2年	1	菅原 一昭	高等学校・専門学校教諭30年。保健体育科専修免許。宮城県マスタース陸上競技連盟理事長。JAAF公認ジュニアコーチ資格。
運動学実習	2年	1	原 和彦 森永 雄	原…理学療法士として急性期、回復期医療施設にて5年以上の臨床経験を有している。主に運動器、中枢疾患、切断のリハの臨床理学療法を行う上で必要となる運動学を指導する。 森永…理学療法士として医療福祉関連施設（大学病院、一般病院、老人保健施設、通所施設）にて5年以上の臨床経験を有している。
臨床運動学	2年	2	網本 和彦 原 和彦	原・網本…医療福祉関連施設（大学病院、一般病院）での理学療法士としての運動器疾患、中枢疾患の臨床実践と研究を継続してきた経験を生かし、治療的介入を行う上で必要となる臨床運動学について指導する。
内科学	2年	2	田林 暁一 西條 芳文	（田林）医師として5年以上の臨床経験があり、それに基づいて代謝、呼吸器、循環器、消化器、及び免疫疾患の病態、治療について講義する。 （西條）医師として5年以上の臨床経験があり、それに基づいて循環、呼吸、内分泌、血液、免疫の病態・診断・治療について講義する。
神経学	2年	2	平山 和美	脳神経内科の医師としての30年以上の臨床実務経験を生かして、医学的な内容を理解させる。
言語聴覚療法概論	2年	1	櫻庭 ゆかり	担当者は言語聴覚士として30年以上の臨床経験を有する。
チームアプローチ入門	2年	1	外里 富佐江 高橋 由美	看護師、作業療法士（病院等に5年以上勤務）として、チーム医療の実務経験を活かし、学生の理解を深められるような授業を展開する。
トランスレーショナルセミナーⅡ	2年	1	大和田 宏美	担当教員はいずれも、理学療法分野で5年以上の実務経験と理学療法士資格を有しており、豊かな臨床経験をもとに、理学療法をおこなう上での実践的なコミュニケーションスキルを教授することが可能である。
理学療法評価学	2年	1	原 和彦	科目担当者は医療福祉関連施設（大学病院、一般病院）での理学療法士としての運動器疾患、中枢疾患の臨床実践と研究を継続してきた経験を生かし、治療的介入や予後予測、治療効果判定を行う上で必要となる基本的な理学療法評価の考え方を講義する。

基礎理学療法評価学実習	2年	1	坂上 尚穂	担当教員は理学療法分野で5年以上の実務経験と理学療法士資格を有しており、その経験を活かし理学療法評価の意義を理解し、基礎的な評価技術を修得することで、臨床実習に繋げることができるような授業を行います。
運動器障害理学療法評価学実習	2年	1	伊藤 大亮 大友 篤	担当教員はいずれも、理学療法分野で5年以上の実務経験と理学療法士資格を有しており、かつ臨床および研究において運動器障害分野に専門的に従事してきており、より専門的、具体的な教育が可能である。
物理療法学演習	2年	1	伊橋 光二 小関 友記	担当教員は理学療法分野で5年以上の実務経験と、理学療法士資格を有しており、その経験を活かして学生が物理療法学について理解を深め、臨床現場に繋げることができるような実践的な授業を行います。
日常生活活動学実習	2年	1	小関 友記	担当教員は理学療法分野で5年以上の実務経験と理学療法士資格を有しており、その経験を活かして学生が理解と実践ができるように授業を行います。
老年学	3年	1	佐直 信彦	医学部卒業後東北大学医学部付属鳴子分院にて内科学全般を研修、リハビリテーション医学の臨床・教育・研究に13年間携わり、東北労災病院リハビリテーション科に18年間勤務し、リハビリテーション科専門医・脳卒中専門医等を取得した。その後、4年制大学及び短期大学で老年学の講義を20年余にわたり担当した。
公衆衛生学	3年	1	小林 淳子	担当教員は保健師の資格と行政保健師として5年以上の公衆衛生看護実務経験を有しており、その経験を活かして学生が公衆衛生について理解が深まるよう授業を行います。
臨床検査・画像診断学	3年	1	小山 周樹 三木 未佳	(小山)放射線科専門医であり医学部においても東北大学医学部および東北医科大学医学部にて臨床実習を通算30年以上担当しており、本学看護学部でも病態治療学Iを10年以上担当している。 (三木)臨床検査技師として5年以上大学病院での実務経験に基づき、検査データの見方について授業を行います。
トランスレーショナルセミナーⅢ	3年	1	坂上 尚穂	担当教員は臨床経験が5年以上あり、症例検討の指導にも長年従事したため、学生に対しより実践的な助言・指導が授業が可能です。
神経障害理学療法評価学実習	3年	1	小関 友記	担当教員は理学療法分野で5年以上の実務経験と理学療法士資格を有しており、神経障害に対する理学療法を実践してきました。その経験を活かして学生が神経障害に関する評価の意義の理解と実践ができるように授業を行います。
内部障害理学療法評価学演習	3年	1	伊藤 大亮	担当教員はいずれも、理学療法分野で5年以上の実務経験と理学療法士資格を有しており、かつ臨床および研究において内部障害分野に専門的に従事してきており、より専門的、具体的な教育が可能である。
理学療法評価学総合実習	3年	1	大友 篤 小関 友記	担当教員は理学療法分野で5年以上の実務経験を有しており、その経験を活かして学生が理学療法評価について理解を深め、臨床現場に繋げることができるような実践的な授業を行います。
運動器障害理学療法学	3年	2	原 和彦	担当教員は理学療法分野で20年以上の実務経験と理学療法士資格を有しており、運動器理学療法の臨床経験を活かして講義を行います。
運動器障害理学療法学演習	3年	2	原 和彦 坂上 尚穂	担当教員は理学療法分野で5年以上の実務経験と理学療法士資格を有しており、その経験を活かし上記病態を理解し、治療・指導を修得することで、実際の臨床現場に繋げることができるような授業を行います。
神経障害理学療法学	3年	2	網本 和 大和田 宏美	担当教員は、理学療法分野で5年以上の実務経験と理学療法士資格を有しており、その経験や研究活動を活かして、学生が脳卒中について理解を深め、症例に即した理学療法評価および理学療法の実践につながるよう授業を行います。
神経障害理学療法学演習	3年	2	網本 和 大和田 宏美	担当教員は、理学療法分野で5年以上の実務経験と理学療法士資格を有しており、その経験や研究活動を活かして、学生が脳卒中について理解を深め、症例に即した理学療法評価および理学療法の実践につながるよう演習を通して学ぶ授業を行います。
高次脳機能障害学	3年	1	網本 和	担当教員は大学病院等で20年以上の臨床経験を有する。
内部障害理学療法学	3年	2	伊橋 光二	担当教員はいずれも、理学療法分野で5年以上の実務経験と理学療法士資格を有しており、かつ臨床および研究において内部障害分野に専門的に従事してきており、より専門的、具体的な教育が可能である。
内部障害理学療法学演習	3年	2	伊橋 光二	担当教員はいずれも、理学療法分野で5年以上の実務経験と理学療法士資格を有しており、かつ臨床および研究において内部障害分野に専門的に従事してきており、より専門的、具体的な教育が可能である。
神経筋疾患理学療法学	3年	2	網本 和 大和田 宏美	担当教員は、理学療法分野で5年以上の実務経験と理学療法士資格を有しており、その経験や研究活動を活かして、学生が神経筋疾患について理解を深め、症例に即した理学療法評価および理学療法の実践ができるように授業を行います。
小児理学療法学	3年	1	楠本 泰士	実務経験が5年以上、博士（理学療法学）
義肢装具学	3年	2	原 和彦	医療福祉関連施設（大学病院、一般病院）での理学療法士としての実務経験を活かし、学生が義肢装具について理解を深め、臨床現場に繋げることができるような授業を展開する。
義肢装具学演習	3年	1	原 和彦	医療福祉関連施設（大学病院、一般病院）での理学療法士としての実務経験を活かし、学生が義肢装具について理解を深め、臨床現場に繋げることができるような授業を展開する。
臨床実習Ⅱ（評価実習）	3年	4	原 和彦	担当教員は理学療法分野で5年以上の実務経験を有しており、その経験を活かして学生が理学療法評価について理解を深め、臨床現場に繋げることができるような実践的な指導を行います。
理学療法学総合演習Ⅰ	3年	1	大和田 宏美	担当教員は全員、医師あるいは理学療法士、作業療法士として10年以上の臨床経験をもち、教育経験も同様である。そのため、基礎医学、臨床医学、作業療法の知識を理解、整理するための適切な教育をすることが可能である。
	合計	63	実務経験を有する教員が担当する科目の単位	
		124	設置基準上の標準単位数	

【リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻】

科目名称	履修年次	単位数	教員氏名	実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性
法学入門	1年	1	鈴木 一樹	公認会計士として企業等の会計監査、税理士として税務業務、不動産鑑定士として鑑定評価業務に従事
経済と政策	1年	1	高橋 真	担当教員は、宮城県公立高校教員として11年「地理歴史科」「公民科」科目を担当し、また岩手大学と尚絅学院大学の教職課程担当者として20年「社会科教育法」を担当してきた。その経験に基づき、大学における経済学教育の実践的な教育指導法についての経験を有している。担当教員は学生の理解を高める授業を行います。 【免許・資格】中学校教諭一種・高等学校専修教員免許、大学設置審・教職課程設置担当科目合格教員
健康スポーツⅠ	1年	1	菅原 一昭	高等学校・専門学校教諭30年。保健体育科専修免許。宮城県マスターズ陸上競技連盟理事長。J A A F公認ジュニアコーチ資格。
解剖学Ⅰ	1年	2	大和田 宏美	担当教員は、理学療法分野で5年以上の実務経験と理学療法士資格を有しており、その経験や研究活動を活かし、学生が解剖学について理解を深め、理学療法学・作業療法学を学んでいく上で必要な基礎医学の知識が身につくような授業を行います。
解剖学演習	1年	1	大和田 宏美	担当教員は、理学療法分野で5年以上の実務経験と理学療法士資格を有しており、その経験や研究活動を活かし、学生が解剖学について理解を深め、理学療法学・作業療法学を学んでいく上で必要な基礎医学の知識が身につくようグループワーク中心の演習を行います。
運動学総論	1年	1	原 和彦	医療福祉関連施設（大学病院、一般病院）での理学療法士としての実務経験を活かし、学生が身体運動の仕組みについて理解を深め、臨床現場に繋げることができるような授業を展開する。
運動学演習Ⅰ	1年	1	原 和彦 坂上 尚穂	担当教員は理学療法分野で5年以上の実務経験と理学療法士資格を有しており、その経験を活かし、学生が人体の構造と機能について理解を深め、日常生活や臨床現場に繋げることができるような授業を行います。
運動学演習Ⅱ	1年	1	原 和彦 大友 篤	担当教員は理学療法分野で5年以上の実務経験と理学療法士資格を有しており、その経験を活かし、学生が人体の構造と機能について理解を深め、日常生活や臨床現場に繋げることができるような授業を行います。
人間発達学	1年	1	外里 富佐江	科目担当者は15年以上の地域、病院、施設で作業療法士としての臨床経験を有し、人間発達学の教育経験は、8年以上有している。具体的に人間発達学の事例紹介が可能であり、わかりやすく解説する。
栄養学	1年	1	岩間 正典 高泉 佳苗	高泉…管理栄養士として病院に勤務した実務経験を有する。授業では病院での栄養管理業務の経験を活かした授業を行う。
救急救命学	1年	1	堀口 雅司	・救急救命士としての25年以上の実務経験を活用して、医療人の基礎となる安全管理・救急医療の重要性を教授する。 ・医療人の基本となる人間愛と思いやりの心を持った救急対応時の知識と技術を指導する。
リハビリテーション概論	1年	2	佐直 信彦	医学部卒業後東北大学医学部付属鳴子分院にて内科学全般を研修、リハビリテーション医学の臨床・教育・研究に13年間携わり、東北労災病院リハビリテーション科に18年間勤務し、リハビリテーション科専門医・脳卒中専門医等を取得、教科書作成にも関わった。その後、4年制大学及び短期大学でリハビリテーション概論及びリハビリテーション医学の講義を20年余にわたり担当した。
作業療法学概論	1年	1	齋藤 佑樹	担当教員は作業療法士資格を有し、作業療法分野で14年の実務経験がある。その経験を活かし、作業療法になるための基礎的知識を修得できるよう、実践的な授業を行う。
基礎作業学	1年	1	齋藤 佑樹	担当教員は作業療法士資格を有し、作業療法分野で14年の実務経験がある。その経験を活かし、作業療法の中核概念である作業について、科学的知見を踏まえて授業を行う。
トランスレーショナルセミナーⅠ	1年	1	外里 富佐江	担当教員はいずれも、作業療法分野で5年以上の実務経験と作業療法士資格を有しており、豊かな臨床経験をもとに、より実践的な教育が可能である
臨床実習Ⅰ（体験実習）	1年	2	外里 富佐江	担当教員は、作業療法分野で5年以上の実務経験と作業療法士資格を有しており、その経験を活かし、学生が作業療法についての理解を深め、臨床現場につなげることができるような実践的な授業を行います。
地域生活支援論	1年	1	外里 富佐江 戸田 祐子	担当する教員全員が、10年以上の臨床経験を有し訪問リハビリテーション、施設での作業療法を経験している。地域で作業療法を実践していくため、必要な基礎知識について教授する実務能力がある。
健康スポーツⅡ	2年	1	菅原 一昭	高等学校・専門学校教諭30年。保健体育科専修免許。宮城県マスターズ陸上競技連盟理事長。J A A F公認ジュニアコーチ資格。
運動学実習	2年	1	原 和彦 森永 雄	原…理学療法士として急性期、回復期医療施設にて5年以上の臨床経験を有している。主に運動器、中枢疾患、切断のリハの臨床理学療法を行う上で必要となる運動学を指導する。 森永…理学療法士として医療福祉関連施設（大学病院、一般病院、老人保健施設、通所施設）にて5年以上の臨床経験を有している。
臨床運動学	2年	2	網本 和彦 原 和彦	原・網本…医療福祉関連施設（大学病院、一般病院）での理学療法士としての運動疾患、中枢疾患の臨床実践と研究を継続してきた経験を生かし、治療的介入を行う上で必要となる臨床運動学について指導する。
内科学	2年	2	田林 暁一	（田林）医師として5年以上の臨床経験があり、それに基づいて代謝、呼吸器、循環器、消化器、及び免疫疾患の病態、治療について講義する。 （西條）医師として5年以上の臨床経験があり、それに基づいて循環、呼吸、内分泌、血液、免疫の病態・診断・治療について講義する。
神経学	2年	2	平山 和美	脳神経内科の医師としての30年以上の臨床実務経験を生かし、医学的な内容を理解させる。
言語聴覚療法概論	2年	1	櫻庭 ゆかり	担当者は言語聴覚士として30年以上の臨床経験を有する。
チームアプローチ入門	2年	1	外里富佐江 高橋 由美	看護師、作業療法士（病院等に5年以上勤務）として、チーム医療の実務経験を活かし、学生の理解を深められるような授業を展開する。

トランスレーショナルセミナーⅡ	2年	1	酒井 弘美	担当教員はいずれも、作業療法分野で5年以上の実務経験と作業療法士資格を有しており、豊かな臨床経験をもとに、より実践的な教育が可能である
作業療法評価学	2年	1	酒井 弘美	担当者は作業療法士の資格を有し、大学病院、総合リハビリテーションセンター等で20年以上の臨床経験がある。また、40年間、地域での作業療法にも関わってきたため、実際の現場で求められる作業療法評価について教育することが可能である。
身体障害作業療法評価学演習Ⅰ	2年	1	酒井 弘美 戸田 祐子	担当教員は全員作業療法士資格を有し、作業療法分野で5年以上の実務経験がある。その経験を活かし、評価手技についての授業を行う。
身体障害作業療法評価学演習Ⅱ	2年	1	齋藤 佑樹	担当教員は作業療法士資格を有し、作業療法分野で14年の実務経験がある。その経験を活かし、作業療法実践に不可欠な評価手技についての授業を行う。
精神障害作業療法評価学演習	2年	1	平山 和美 須藤 あゆみ	担当教員は作業療法分野で5年以上の実務経験と作業療法士資格を有しており、精神障害に対する作業療法を実践してきた。その経験を活かして学生が精神障害の作業療法について理解を深める実践的な授業を行う。
高次脳機能障害作業療法評価学演習	2年	1	齋藤 佑樹	担当教員は作業療法士の資格を有し、作業療法分野で14年の実務経験がある。その経験を活かし、高次脳機能障害の作業療法に必要な評価の知識・手技について授業を行う。
生活環境論	2年	1	外里 富佐江	作業療法士の資格をもち、地域リハビリテーションの経験を有し、わかりやすく生活環境について伝えることができる。
老年学	3年	1	佐直 信彦	医学部卒業後東北大学医学部付属鳴子分院にて内科学全般を研修、リハビリテーション医学の臨床・教育・研究に13年間携わり、東北労災病院リハビリテーション科に18年間勤務し、リハビリテーション科専門医・脳卒中専門医等を取得した。その後、4年制大学及び短期大学で老年学の講義を20年余にわたり担当した。
公衆衛生学	3年	1	小林 淳子	担当教員は保健師の資格と行政保健師として5年以上の公衆衛生看護実務経験を有しており、その経験を活かして学生が公衆衛生について理解が深まるよう授業を行います。
臨床検査・画像診断学	3年	1	小山 周樹	(小山)放射線科専門医であり医学部においても東北大学医学部および東北医科薬科大学医学部にて臨床実習を通算30年以上担当しており、本学看護学部でも病態治療学Ⅰを10年以上担当している。 (三木)臨床検査技師として5年以上大学病院での実務経験に基づき、検査データの見方について授業を行います。
基礎作業学演習Ⅰ	3年	1	齋藤 佑樹 須藤 あゆみ	担当教員は作業療法士資格を有し、作業療法分野で5年以上の実務経験がある。その経験を活かし、作業を評価・治療に用いる意義や具体的手法について授業を行う。
トランスレーショナルセミナーⅢ	3年	1	齋藤 佑樹	担当教員は作業療法士資格を有し、作業療法分野で5年以上の実務経験がある。その経験を活かし、臨床力を養うための実践的な授業を行う。
作業療法研究法Ⅰ	3年	1	外里 富佐江	担当教員は、20年以上の教育経験があり、地域リハビリテーション領域、高次脳機能障害、神経神経学領域、専門職連携教育における研究実績があり、わかりやすく指導できる。
作業療法理論	3年	2	齋藤 佑樹	担当教員は作業療法士資格を有し、作業療法分野で14年の実務経験がある。また、作業療法理論に関連した学術論文や書籍を多数執筆している。これらの経験を活かし授業を行う。
身体障害作業療法学Ⅰ	3年	2	酒井 弘美	単位認定者は作業療法士の資格を有し、大学病院、総合病院、リハビリテーションセンター等での20年以上の臨床経験があり、長年地域での作業療法にも関わってきた。その経験を活かし、現場で求められている作業療法について、より具体的に教育する。
身体障害作業療法学Ⅱ	3年	2	酒井 弘美	単位認定者は作業療法士の資格を有し、大学病院、総合病院、リハビリテーションセンター等での20年以上の臨床実務経験がある。その経験を活かし、より具体的に現場で求められる作業療法について教育する。
身体障害作業療法学演習	3年	2	齋藤 佑樹	担当教員は作業療法士資格を有し、身体障害作業療法分野で14年の実務経験がある。この経験を活かし、臨床実践力を養う授業を行う。
精神障害作業療法学	3年	2	須藤 あゆみ	担当教員は作業療法分野で5年以上の実務経験と作業療法士資格を有しており、精神障害に対する作業療法を実践してきた。その経験を活かして学生が精神障害の作業療法について理解を深める実践的な授業を行う。
精神障害作業療法学演習	3年	1	須藤 あゆみ 熊谷 竜太	担当教員は作業療法分野で5年以上の実務経験と作業療法士資格を有しており、精神障害に対する作業療法を実践してきた。その経験を活かして学生が精神障害の作業療法について理解を深める実践的な授業を行う。
高齢期作業療法学	3年	1	外里 富佐江	教員は、10年以上の臨床経験があり、20年以上の「高齢期作業療法」の教育経験を持つ。この授業を担当する高齢期の作業療法について十分な経験がある。
高齢期作業療法学演習	3年	1	外里 富佐江	全教員は、作業療法士として10年以上の臨床経験があり、「高齢期作業療法演習」の教育経験を持つためわかりやすく指導が可能である。
発達障害作業療法学	3年	1	橋浦 樹里	担当教員は作業療法士資格を有しており、小児領域において5年以上の実務経験があります。その経験を生かして、学生が発達や小児疾患への理解を深め、臨床現場で作業療法士としての役割を実践できるよう、具体的に授業を行います。
高次脳機能障害作業療法学	3年	1	酒井 弘美	科目担当者は作業療法士の資格を有し、大学病院、総合病院、リハセンターで20年以上の実務経験がある。また、東京都大田区で高次脳機能障害者の機能訓練事業、就労支援事業に13年間携わってきた。その経験を活かし、高次脳機能障害者の急性期、回復期、生活期の全てに対応する作業療法士の教育を行う。
日常生活活動学	3年	2	齋藤 佑樹	担当教員は作業療法士資格を有し、身体障害作業療法分野で14年の実務経験がある。この経験を活かし、臨床実践力を養う授業を行う。
義肢装具学	3年	2	齋藤 佑樹	担当教員は作業療法士資格を有する。身体障害作業療法分野で14年の実務経験があり、義肢装具を用いた作業療法介入を多く経験してきた。この経験を活かし、臨床実践力を養う授業を行う。

地域作業療法学	3 年	1	外里 富佐江	担当教員は、10年以上、地域、施設、病院の臨床に携わり豊富な知識と臨床経験があり、20年以上の教育経験があるため、わかりやすく地域リハビリテーションを教授が可能である。
職業リハビリテーション論 I	3 年	1	酒井 弘美	担当教員は作業療法士として、20年以上の医療機関での実務経験を持つほか、東京都大田区で高次脳機能障害者の就労支援事業に13年間携わり、自立支援協議会の就労部員としての経験も有している。その経験を活かし、職業リハビリテーションについて多職種との連携も含めて教育する。
作業療法学総合演習 I	3 年	1	平山 和美 酒井 弘美	担当教員は全員、医師あるいは理学療法士、作業療法士として10年以上の臨床経験をもち、教育経験も同様である。そのため、基礎医学、臨床医学、作業療法の知識を理解、整理するための適切な教育をすることが可能である。
	合計	65	実務経験を有する教員が担当する科目の単位	
		124	設置基準上の標準単位数	